

# 「地域文化倶楽部(仮称)創設支援事業」 活動状況報告書

## 8月報告版

|      |                       |
|------|-----------------------|
| ●団体名 | 寒河江市立寒河江中部小学校地域学校協働本部 |
| ●地域  | 山形県寒河江市               |

具体的な実施内容（採択からこれまでの取組内容と、それについての課題や成果等が明確となるよう簡潔に記載すること）

### ●これまでの取組概要

#### 持続可能性

構築された体制の確認、事業を通じて得られた知見の活用方法

指導時間に応じた謝金を支払うことにより、保護者の経済的な負担が軽減した。このことにより、金管バンドに参加する子どもの確保につながっていると思われる。また、外部指導者にも責任が生じ、昨年度に比べ、指導日が増えている。さらに、地域の指導者も増え、感染予防のために行っているパートごとの練習も充実したものになっている。

#### 事業計画書との差異

- ・ 4月の入学式における演奏…寒河江市のコロナ緊急事態宣言のため中止
- ・ 6月の運動会での演奏…コロナ禍により自粛(運動会も短縮して実施)
- ・ 8月強化合宿…宿泊しての練習は中止とし、8月15日(日)に寒河江市市民体育館、8月16日(月)に山形県総合運動公園メインアリーナにおいて強化練習を実施

練習については、指導者の協力により充実しているが、演奏を披露する場合は、どれも中止となっている。9月のマーチングバンド県大会に向けて、練習しているが、状況によっては中止となることもあり得る。(昨年度は中止であった。)

#### その他報告事項

マーチングバンドの東北大会が11月に宮城県で、12月に全国大会が埼玉県で、開催予定である。コロナ禍の中で県をまたいでの移動が伴う場合、学校や教育委員会の理解や協力を得るのは難しいと考えている。できれば、今年度の大会もビデオ審査であればありがたい。

### ●進捗に関わる課題と思われること、懸念事項

指導者へは予算がなくなった時点で謝金は支払えなくなることを伝えてあるものの、そうなった場合、指導者の参加率の低下が懸念される。

また、来年度、今年度の実績を踏まえ、予算化を図りたいと考えているが、どのように予算を確保すればよいのか大変難しい状況である。

※必要な場合は、記入欄を適宜調整すること。

※取り組み概要について、写真等を入れても構わない。

# 「地域文化倶楽部(仮称)創設支援事業」 活動状況報告書

## 7月報告版

|      |                |
|------|----------------|
| ●団体名 | 一般社団法人日本伝統文化の会 |
| ●地域  | 東京都中心          |

具体的な実施内容（採択からこれまでの取組内容と、それについての課題や成果等が明確となるよう簡潔に記載すること）

### ●これまでの取組概要

#### 持続可能性

構築された体制の確認、事業を通じて得られた知見の活用方法

10月4日、港区の中学校にて体験学習後、校長先生にインタビューを行ったところ、「和楽器を鑑賞する機会はネット等を含め十分な環境下にある。しかし実際に自分の手で触り、演奏する機会はかなり乏しい。当校には和楽器が用意されているが教える先生がいない。また和楽器のメンテナンスも限られた予算の中でしか対応できず、寄付等で寄せられた楽器を修理して十分活用できないことも多々ある。講師の派遣・楽器の手配等を願う学校は多いと思うので、今後このような活動を続けて欲しい」とのお言葉をいただいた。

また、コロナの影響で感染症対策の一環として、今までのように一つの楽器を何人もで使いまわすのではなく、一人ひとりに楽器を提供できる環境が必要となる可能性は高い。数多くの楽器をレンタルできる環境づくりのためにも、楽器商と地域の講師たちが連携を密にして各学校にアクセスしやすいネットワーク構築の必要性を強く感じた。

#### 事業計画書との差異

コロナ禍で学校の授業がオンラインになったり、密を避けるための人数制限や、十分な換気体制を必要とするなどの事情から、学校での和楽器体験授業という課題は見送られる状態が続いた。また、7月から9月にかけて東京オリンピックとパラリンピック東京が開催されたこと、さらに緊急事態宣言が9月末まで続き、当初の計画とはかなり異なる方向となった。しかし、緊急事態宣言解除とともに和楽器体験授業のオファーも増えており、10月4日に港区の中学校にて、委託事業として初の和楽器体験授業を行なう運びとなった。昨年末では小学校からのオファーが多い中、中学校や夜学の定時制高校からの体験学習依頼があり、小学生よりも年齢層が高い子供たちの活動再開が緊急事態宣言解除とともに解禁となったようだ。小学校の活動解禁はもう少し先となりそうだ。

#### その他報告事項

##### 予算について

体験授業はまだ1回の実施にとどまっているため、予算消化は10万円ほどにとどまっている。しかし、オファーも増えているため今後の活動費としては予算通り執行できる予定。

### ●進捗に関わる課題と思われること、懸念事項

上記の通り、コロナの影響で数人で楽器の使いまわすのではなく、一人ひとりに楽器を提供できることが望ましいが、レンタル料との兼ね合いもあり、数人で使いまわすこともあるかと思われる。その場合なるべく人数を減らし。都度のアルコール消毒などの対策をする必要がある。また、換気を十分にするために窓やドアを開け放しての授業となるため、他の教室への音の配慮も必要となる等の点が今後の懸念事項と思われる。



箏の体験授業風景

※必要な場合は、記入欄を適宜調整すること。

※取り組み概要について、写真等を入れても構わない。

# 「地域文化倶楽部(仮称)創設支援事業」 活動状況報告書

## 7月報告版

|      |                      |
|------|----------------------|
| ●団体名 | 東京大学 アート・クロスロード実行委員会 |
| ●地域  | 東京                   |

具体的な実施内容（採択からこれまでの取組内容と、それについての課題や成果等が明確となるよう簡潔に記載すること）

### ●これまでの取組概要

#### 持続可能性

構築された体制の確認、事業を通じて得られた知見の活用方法

本事業では、附属学校、教育学部、ACUTの3つの組織が連携して運営する実行委員会が、附属学校がこれまで行ってきた生徒たちへの文化芸術活動支援活動を拡張し、多様な人々（学年が異なる生徒たち、地域の人々、アーティスト、研究者・専門家など）が文化芸術活動の多領域にわたって交差する場を作る（①、アート・クロスロード・プロジェクト（以下、ACP）の開始）。それにより、学校の内外をつなぎ、インクルーシブやダイバーシティといった性質を内包するアートの本質的な要素を体験する機会を生徒たちに提供する（②ACPによる活動）。①と②を実現するため、本事業では、事業進行に関する全体的な調整から個々の企画の運営まで担当するACPコーディネーターを1名雇用した。さらに、大学の教員や大学院生、有志の大学生ボランティアたちが関わりながら①と②を実現していく体制を構築した。

これまでに実施したワークショップや講演会等を通して、附属学校におけるICTの活用やデータの記録に関する知見が得られている。これらの知見を活かし、コーディネーター・附属学校の教員・クロスロードクラブの生徒・東大の研究チームが連携し、現在行っている活動の集大成としての芸術祭の実施や遠隔地の他校との連携の方法、当事業の継続的な実施のための方法や問題点、このような活動を全国的に波及させていくための方策について議論している。

### 事業計画書との差異

本事業で実施することには、①ACPの立ち上げと②ACPによる活動の展開がある。現時点における事業の進捗状況は以下の通りである。①ACPの立ち上げに関しては、当初の計画通りに進行している。ACPへの継続的な参加を希望する附属学校の生徒をコアメンバーとする「アート・クロスロードクラブ（以下、クロスロードクラブ）」が設立され、生徒を中心とした活動が継続的に行われている。②ACPによる活動の展開に関しては、新型コロナウイルス感染症の流行に伴う遅れが見られるが、予定していた複数のワークショップや講演会を実施し、これからの活動についての打ち合わせ等も進めている。

①ACPの立ち上げに関する計画との差異としては、クロスロードクラブの生徒による予想を超えた積極的な活動が挙げられる。事業計画書の提出段階では、活動のセッティングに伴う業務や生徒たちへの実地での指導を行う役割を複数種類のコーディネーターが担うことを計画していた。実際には、1人のコーディネーターと担当教員の監督のもと、クロスロードクラブに所属する生徒たちが企画ごとに班を構成し、ワークショップや講演会を担当するアーティスト・専門家とコンタクトを取り、これらの活動の内容に関する打ち合わせや機材の準備、一般生徒に向けたチラシの作成、SNSによる広報活動等を推進している。また、有志の大学生ボランティアが複数名参加しており、クロスロードクラブの生徒たちの活動を指揮している。

②ACPによる活動の展開に関しては、2-Aアーティストのワークショップや講演会、2-B東京大学の専門家による講演会等、2-C附属学校における芸術祭の準備がある。これらに関する計画との差異としては、まず、生徒の希望やアーティストを取り巻く状況の変化により、当初計画していた文化芸術活動の種類から多少の変更が生じていることが挙げられる。さらに、新型コロナウイルス感染症の影響により、企画の実施に多少の遅れが生じている。

### その他報告事項

特になし

### ●進捗に関わる課題と思われること、懸念事項

このような事業を継続していくためには、アーティスト・専門家によるワークショップや講演会の実施にかかる費用、それらの企画の運営を担うACPコーディネーターへの謝金、及び、芸術祭実施にかかる諸費用の確保が大きな課題となることが考えられる。また、大学生ボランティアを継続的に確保していくための方法の確立も課題となることが予測される。

※必要な場合は、記入欄を適宜調整すること。

※取り組み概要について、写真等を入れても構わない。

# 「地域文化倶楽部(仮称)創設支援事業」 活動状況報告書

## 10月報告版

|      |                      |
|------|----------------------|
| ●団体名 | 一般社団法人さいたまスーパーシニアバンド |
| ●地域  | 埼玉県                  |

具体的な実施内容（採択からこれまでの取組内容と、それについての課題や成果等が明確となるよう簡潔に記載すること）

### ●これまでの取組概要

#### 持続可能性

構築された体制の確認、事業を通じて得られた知見の活用方法

- ①ときがわ町民バンド、一般社団法人文楽組と事業開始にあたっての手順を協議し確認した。同時に後援のときがわ町、ときがわ町教育委員会と協議を行った。（令和3年4月～5月）
- ②ときがわ子ども音楽倶楽部の部員募集を行う。募集チラシは添付のとおり。
- ③ときがわ町内の小中学生15名の応募があり、7月24日（土）午後、第一回の講座を開催
- ④以降、8月～10月の間月二回ときがわ子ども音楽倶楽部を開催した。  
なお、9月は緊急事態宣言発出に伴い、町内の公共施設が閉館となったため講師自宅で特別講座を一回開催した。
- ④この間の運営等打合せ：4月3日（土）以降WEB会議を含み、月一回程度開催し進捗確認ならびに今後の方針を検討した。
- ⑤各種の諸連絡は、LINE、メールを活用し事業のスムーズな運営を図った。

#### 事業計画書との差異

- ①募集人員は20名を予定していたが、コロナ禍もあり15名にとどまった。
- ②開催場所は、町外からのサポートメンバー（主に当団員）が利用可能な公共施設をメイン会場とした。
- ②9月は緊急事態宣言の延長、感染拡大により公共施設が閉館となったため、講座の中止または開催方式を変更した。
- ③講座開催日：7月24日（土）、8月14日（土）、28日（土）、9月11日（土）、25日（土）休講、10月9日（土）、23日（土）
- ④緊急事態宣言下で7月～10月の間はプロ講師の招聘は、ときがわ町在住者に限定した。

### ●その他報告事項

#### 【緊急事態宣言下の対応】

- ときがわ町の公共施設が9月は閉館となったため以下の対応とり、部員のモチベーション維持を図った。
- ①織田邸で打楽器講師植松透による特別講座を開催。11名を2チームに分け、ソーシャルディスタンスを確保して実施
  - ②受講生が自宅で練習できるよう、当団員の創意工夫により各パートごとにe-ラーニングビデオ（基礎練習および練習曲 海兵隊の模範演奏）を作成し、You tubeで限定配信した。

### ●進捗に関わる課題と思われること、懸念事項

#### 【コロナウイルスの感染再拡大の懸念】

冬季シーズンに第6波が予想され、公共施設が休館となった場合、講座日程ならびに講師都合の再調整が必要となる。同時に成果発表会開催にも影響する可能性がある。

※必要な場合は、記入欄を適宜調整すること。

※取り組み概要について、写真等を入れても構わない。



# 「地域文化倶楽部(仮称)創設支援事業」 活動状況報告書

## 7月報告版

|      |              |
|------|--------------|
| ●団体名 | 一般社団法人江原河畔劇場 |
| ●地域  | 兵庫県          |
|      |              |

具体的な実施内容（採択からこれまでの取組内容と、それについての課題や成果等が明確となるよう簡潔に記載すること）

### ●これまでの取組概要

#### 持続可能性

構築された体制の確認、事業を通じて得られた知見の活用方法

「たじま児童劇団」は、7月に但馬地域の全小中学校・高校に募集チラシを配布。数回のお試しのワークショップを経て、8月より活動を開始した。小学生の部と中学生の部で分け、それぞれで活動を行っている。小学生の部は、劇団青年団の俳優が講師とアシスタントを務め、中学生の部は劇団青年団主宰の平田オリザが講師を、アシスタントは青年団の俳優が務めている。現在、但馬地域と周辺地域の小学生15名、中学生15名が活動している。やや遠方からの参加者もいるが、周辺地域に他に演劇に持続的に取り組むクラブがないためと推察される。地域住民の注目度が高く、小学生の発表会は感染症対策のため家族限定で開催したが、ぜひ観たいという声が多かった。毎回の活動報告を江原河畔劇場のFacebookページや、劇場が発行する通信で紹介し、次年度以降の参加者募集にも繋げようと工夫している。参加者も保護者も関心意欲が高く、事情のある欠席以外、遅刻欠席はない。学校が違う子ども同士、中学生と高校生という年代の違う子ども同士が、活動を通して交流し、合意形成をしながら創作に取り組んでいる。児童劇団の活動を通して、参加者はもちろん、地域の方に劇場がどんなことをしているのかを知ってもらいきっかけにもなっており、地域の文化活動への興味関心を引き出すことに繋がっている。



【小学生の部】  
劇場内の気になる場所を使ってシーンを立ち上げるワーク。



【中学生の部】  
テキストを数名のチームで練習する様子。



【小学生の部】  
身体を使ったジェスチャーで表現するワーク。



【中学生の部】  
実際の台本を使ってシーンを組み立てるワーク。

#### 事業計画との差異

参加者の募集開始がコロナの影響で5月から7月にずれ込み、8月から活動を開始した。豊岡演劇祭2021が中止となったため観劇を行うことができなかった。その代わり、江原河畔劇場での公開リハーサルを希望者に観劇してもらうなどで鑑賞の機会を創出した。開始時期は遅くなったが、当初の計画通りの回数で活動予定。

#### その他報告事項

活動開始前に保護者の意向によりコロナの影響を鑑みて1名辞退の申し出があった。

### ●進捗に関わる課題と思われること、懸念事項

新型コロナウイルス感染症による影響が最も大きい。演劇はどうしても人同士が関わるため、学校が違う子どもたちが集うことは感染リスクが高くなる。また、公演を行うにしても、観客の対象を制限するなど、本来実施したい内容が100%できない可能性がある。1月に予定する公演では、感染状況を見ながら、PCR検査や抗原検査を実施して可能な限りの対策を講じる。

※必要な場合は、記入欄を適宜調整すること。

※取り組み概要について、写真等を入れても構わない。

# 「地域文化倶楽部(仮称)創設支援事業」 活動状況報告書

## 10月報告版

|      |                                  |
|------|----------------------------------|
| ●団体名 | 特定非営利活動法人MIYAZAKI C-DANCE CENTER |
| ●地域  | 宮崎県                              |

具体的な実施内容（採択からこれまでの取組内容と、それについての課題や成果等が明確となるよう簡潔に記載すること）

### ●これまでの取組概要

| 持続可能性                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               | 構築された体制の確認、事業を通じて得られた知見の活用方法 |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------|
| <p>・「地域文化倶楽部(仮称)創設支援事業」における当法人の取り組みについて、当法人の関係者、実施拠点の「国際こども・せいねん劇場みやざき」の関係者や視察等で訪れた行政・企業・研究者・学校関係者・アート関係者・アーティスト・地域のNPO等に説明をしたところ、好意的な反応を得られた。</p> <p>・宮崎市(地域振興部)や宮崎県(教育委員会)、宮崎大学(産学・地域連携センター)、宮崎県女子体育連盟に本事業の説明を行い、連携・協力をお願いすることができた。</p> <p>・Bコース「CandYアートoffice」の参加者を募る五ヶ瀬中等教育学校へ本事業の説明を行い、連携・協力をお願いすることができた。</p> <p>・地域文化倶楽部のような取り組みを実際に行なっていたり、興味・関心のある美術館(他県)などとネットワークを構築することができ、次年度以降、オンライン・オフラインでの交流に向けてミーティングを行うことができた。</p> |                              |

### 事業計画書との差異

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |  |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--|
| <p>Aコース『CandY アート塾』</p> <p>・申請時の計画では、定期的な実施を予定していたが、新型コロナウイルス感染症の流行に伴う宣言(5月9日に県独自の緊急事態宣言発令)(8月11日に県独自の緊急事態再宣言発令)(8月27日にまん延防止等重点措置)の影響で実施を断念せざるおえない時期が続いた。今後は、感染者数の動向をみながら、実施可能な日程を再調整していく予定。</p> <p>Bコース「CandYアートoffice」</p> <p>・当初の予定では、「pre国際アーツフェスティバル」を参加者とともに企画・運営する予定だったものの、新型コロナウイルス感染症の影響で、海外からアーティストを招聘することが難しいため、代替案を参加者とともに企画・運営していく。</p> <p>・オンラインのアート会議を行うことができていたが、講義やインターンシップについては新型コロナウイルス感染症の流行に伴い現在ストップしている。</p> <p>・本年度の企画・運営のみを考えていたが、来年度以降の継続も視野に入れた参加者のプレゼンを2月に実施し、行政やアート関係者にも声をかける。</p> |  |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--|

### その他報告事項

|                                                                                                                                                                                                                                                        |  |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--|
| <p>・地域の中学校より、生徒数の減少を止めるべく、魅力ある部活動(ダンス部)の創設への協力依頼があった。運動の部活動の外部講師の派遣のみならず、文化の部活動においてもニーズが高まることが予想される。「地域文化倶楽部(仮称)創設支援事業」における当法人の取り組みを発信し、文化・芸術に関心のある地域の子どもの受け皿になれるように取り組んでいきたい。</p> <p>・宮崎大学産学・地域連携センターが主催する「第28回技術・研究発表交流会」において、本事業の取り組みをポスター発表した。</p> |  |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--|

### ●進捗に関わる課題と思われること、懸念事項

|                                                                                                                                                                                                   |  |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--|
| <p>・懸念事項1</p> <p>当法人は、アーティストが設立したNPO法人です。申請段階で問い合わせを行い、委託先に所属する職員等であっても支出(諸謝金)は認めるという旨を伺ったため、その予定で予算計画を行なった。しかし、それができなくなったため予算執行に大きな変更が生じている。</p>                                                 |  |
| <p>・懸念事項2</p> <p>新型コロナウイルス感染症により、今後も予定通りに事業が進まない可能性があること。</p>                                                                                                                                     |  |
| <p>・懸念事項3</p> <p>地域文化倶楽部は継続することで意味のある活動になると考えていることから、本事業を来年度以降も継続的に実施していきたいと考えている。この事業が継続していくのか、継続した場合、今年度採択した団体、または採択となった事業は継続採択することができるのかを知りたい。可能であれば、単年の契約ではなく複数年の契約となれば、長期的な計画が立てやすいと感じる。</p> |  |

※必要な場合は、記入欄を適宜調整すること。

※取り組み概要について、写真等を入れても構わない。

# 「地域文化倶楽部(仮称)創設支援事業」 活動状況報告書

## 中間報告版

|      |                 |
|------|-----------------|
| ●団体名 | 和歌山小さなこどもの歌声倶楽部 |
| ●地域  | 和歌山県            |
|      |                 |

具体的な実施内容（採択からこれまでの取組内容と、それについての課題や成果等が明確となるよう簡潔に記載すること）

### ●これまでの取組概要

#### 持続可能性

構築された体制の確認、事業を通じて得られた知見の活用方法

紀北エリアとして和歌山市会場2か所、紀中エリアとして湯浅会場、紀南エリアとしてみなべ会場を設定。幼少期の音楽体験は重要性が高く、3歳児から小学3年生までのこどもを対象とし、和歌山県内の幼稚園、保育所、小学校等へ約40,000部の参加案内チラシを配布。5月1日に締め切ったところ208人の参加希望がありました。各会場とも二か月に一回、土曜日の午前中に実施。日本を代表し、世界的にも活躍している合唱指揮者の沼丸晴彦氏により、特に身体を使った音楽遊びとして手で音階を表すハンドサインなど、楽しく音楽能力を身に付ける指導法で取り組みました。保護者同伴を必須とし、親子で学ぶことで家庭内でも一緒に取り組んでいる様子が伺えました。特に3歳から5歳の園児の保護者からは、「コロナ禍のなか、なかなか歌う機会がなく、こどもはいつも楽しみにしています」との意見もありました。和歌山県内の北は橋本市から南は串本町まで約20市町の方々が参加。和歌山市地区では和歌山児童合唱団、湯浅町では今年度より新たに設立を目指す湯浅少年少女合唱団(仮称)、みなべ町では地元のピッコロ合唱団がそれぞれ地域の歌声倶楽部の受け皿として持続的に取り組んでいきます。



#### 事業計画書との差異

計画では、4会場で最大20人と考えていたところ、208人の応募があり、特に和歌山市内の2会場がそれぞれ70人を越えていたため、できるだけ多くのこども達の要望に応えるため、時間制により1会場2回行い、当初二か月で4会場4回から4会場6回の実施となり、全ての応募者を受け入れました。しかし、コロナの感染状況により、参加を見合わせる方々も多く、最終的には概ね予想通りの開催と人数になると予想しています。

#### その他報告事項

コロナ禍のなか、変異株により若い世代の感染拡大が続いており、当倶楽部では感染拡大防止策を徹底しながら実施していますが、応募してくれているがまだ会えない子どもも多い。今後も、感染状況や政府、自治体等の方針を注視しながら、安心・安全に進めていきます。県内4会場全5クールで実施を予定しているが、2クールを終えた時点で、参加者に対してアンケート調査を実施。貴重なご意見は、今後の活動の重要な資料にさせていただきます。

### ●進捗に関わる課題と思われること、懸念事項

新型コロナウイルス感染症拡大により、今年度は4月以降、ほぼどこかで緊急事態宣言やまん延防止等重点措置が発令されている。特に歌うことは飛沫を飛ばすものとして会場使用の制限や不可の規制がありました。持続的に各地域で取り組むためにも、このコロナの状況がまだまだ続くかと予測して、使用できる会場を慎重に設定する必要があると思います。和歌山県は、現在、他の府県と比べても公共施設など使用可能な場合が多く、独自の新型コロナウイルス感染症危機管理マニュアルを作成しその施設と共有し、取り組んでいます。しかし、使用予定としているみなべ町生涯学習センターでは前半2回ともその会場が使用できず、急きょ、前みなべ町教育委員会教育長の自宅であるお寺をお借りして実施しました。この活動を継続して各地域で定着させるために、このコロナ禍のなかではなかなか先が見えず、まだまだ正常な活動までは至っていないことから、来年度に向けてもこの事業の継続を望みます。さらに私達の活動をSNSでも発信しており、それを見て全国のコーラス指導者が大いに賛同してくれており、「私達の地域でも取り組みたい」との意見を多くいただいています。できればアフターコロナを見据え、こども達の大切な音楽体験できる場所を継続的に創設していくため、全国展開していくのも良いかと思えます。

※必要な場合は、記入欄を適宜調整すること。

※取り組み概要について、写真等を入れても構わない。



# 「地域文化倶楽部(仮称)創設支援事業」 活動状況報告書

## 7月報告版

|      |                   |
|------|-------------------|
| ●団体名 | 一般社団法人北海道茶道文化振興協会 |
| ●地域  | 北海道               |

具体的な実施内容（採択からこれまでの取組内容と、それについての課題や成果等が明確となるよう簡潔に記載すること）

### ●これまでの取組概要

#### 持続可能性

構築された体制の確認、事業を通じて得られた知見の活用方法

子供たちや保護者の方にも負担なく、行えているところがとても評価が高いです。子供たちも稽古が楽しいと積極的に参加しています。また、稽古が終わった後、自宅等でも練習をしている子もいるという報告を受けており、子供たちが積極的に茶道文化に興味関心をもってくれており、今後も続けていってくれそうです。一部の声として「学校の科目に茶道があればいいな」という声もあり、学校内で学べる茶道の展開も考えています。

来年度以降も今回得た知見を活用し、地域の子供たちに向けて更なる茶道文化、伝統文化を伝えていく活動を行えると思います。

#### 事業計画書との差異

現状、事業計画書通りに進んでおります。

#### その他報告事項

日本人としての美的な感性を茶道、伝統文化の中から子供達が感じ取り、一人一人の美的感性の向上が見受けられ、自宅内でも美しい所作や言葉、思いやりの行動があるとの報告を受けます。また、子供たちから「こんな道具あればなあ」や「こんなのあれば面白いのに」などの茶道具創作の意見も出ており、子供ならではの発想と感性が生き生きと発揮されています。本事業の展開次第では、子供たちと大人が共に手を携えて、日本文化のさらなる発展、温故知新の精神のもと、発揮される新たな日本文化の創造、子供ならではの目線と大人の目線から合わせり作り、発信する美しい日本文化や茶道文化、道具の創造などが期待できるのではないかと考えています。これらの動きが日本文化の醸成寄与に働くのではないかと考えております。また、子供たちは、歌や香の魅力などにも気付いたりしてるみたいです。

### ●進捗に関わる課題と思われること、懸念事項

懸念事項としては、新型コロナウイルスの影響等により、参加者が想定よりも少なくなってしまう点と新型コロナウイルスの自粛ムードの広がりから大きな広報活動ができない点があげられます。しかし、来年度以降は新型コロナウイルスが終息していると仮定した場合、参加者が劇的に増えるの見込まれます。もう一点の懸念事項としては、稽古道具が自宅に持ち帰ることができないので、自宅での復習等がやりにくい箇所です。一つ目の課題としては、教育委員会、学校との連携を深め、広報に力を入れていくことが挙げられます。二つ目は、本事業の趣旨理解を教育機関のみならず、地域団体、経済団体にも求める活動をし、本事業のさらなる醸成を目指していく必要があるように感じています。

※必要な場合は、記入欄を適宜調整すること。

※取り組み概要について、写真等を入れても構わない。

# 「地域文化倶楽部(仮称)創設支援事業」 活動状況報告書

## 7月報告版

|      |               |
|------|---------------|
| ●団体名 | 大津芸能倶楽部プロジェクト |
| ●地域  | 滋賀県大津市        |
|      |               |

具体的な実施内容（採択からこれまでの取組内容と、それについての課題や成果等が明確となるよう簡潔に記載すること）

### ●これまでの取組概要

#### 持続可能性

構築された体制の確認、事業を通じて得られた知見の活用方法

（講師）

東京で活躍するプロの方々と連携し、予定通り、学校公演(5/17,19,20,21)やオンライン稽古(7-8月)、発表会(9/11)を行えた。プロの方々は、平日の夜や土日に主要公演が集中するため、今後は公演日や稽古日を平日の昼間に設定して進めていきたい。

（学校）

コロナ禍のため、学校公演やワークショップ開催に不安を持たれていたものの、芸能を体験する機会を提供することにはとても関心が高く、協力的だった。芸能に関して専門知識や時間的、予算的な余裕がないため、プロと児童生徒が出会う場を地域団体が作ることに對して、非常に好意的であった。

（地域）

地域の自治会が協力的で、また、地域のボランティアで運営されている古民家を稽古場として使えたので、引き続き地域と良い関係で進めていきたい。

（行政）

県や市、各教育委員会は、それぞれの立場から、学校とのやりとり、施設の利用、情報発信等々に協力いただけた。

今回がきっかけとなり、主要な部署との関係が結べたので、今後も各部署の特性を活かして、相談・協力をお願いしていきたい。

### 事業計画書との差異

＜差異＞ワークショップの参加者数

実績：落語1名・コント1組・常磐津0名(予定：落語3名・コント3組・常磐津6名)

＜原因分析＞

5月公演後のアンケートでは、小中学生ともにワークショップの参加予定者は多数いたが、実際に応募した数は少なかったため、原因を探った。

（中学生）既に部活動の入会が完了したタイミングだったため、意欲はあってもこちらの活動に参加することが時間的に難しい。

（小学生）コロナ禍で長期間のワークショップへの参加を躊躇するなど、子供たちは乗り気でも保護者の方の理解がないと参加に結びつかない。

＜今後の対策＞

既に参加してくれている子供たちの活動を幅広く周知するとともに、今後中学生になる小学生3年～6年生の子供たち・保護者に向けて、親子で参加できる学校公演を小学校と連携して2月に追加実施する予定。

### その他報告事項

＜活動実績＞詳細はこちら<<https://www.o2gec.org/blog>>

（学校公演関連）5/10,12,14：事前授業@中央小学校・5/17,19,21：ワークショップ兼公演@中央小学校・5/19：事前授業兼ワークショップ兼公演@打出中学校（夏のワークショップ）7/10：オリエンテーション、初回稽古（対面）・7/27,31,8/3,10,14,24,28,9/4：オンライン稽古、自主稽古・9/11：発表会

＜メディア掲載実績＞

（TV）NHK「おはよう関西」子どもの“課外活動”を地域で 放送日9/13 <<http://www.nhk.or.jp/osaka-blog/ohayou/454131.html>>

（新聞）中日新聞(3回)：学校公演、オンライン稽古、発表会・京都新聞(3回)：ワークショップ募集、オンライン稽古、発表会 読売新聞(2回)：ワークショップ募集、オンライン稽古（web）Yahoo!ニュース(1回)：オンライン稽古※びわ湖大津経済新聞の転載

※メディア掲載を見て興味を持った中学生2年生の参加希望者から問い合わせがあった。今後も積極的に活用したい。

＜今後の活動＞

文化庁補助事業「ArtForTheFuture!」と連携して、今回の講師となったプロの方々の公演を複数回に開催。

観覧を希望する地域の子供たちには無料で見ていただけるような企画にしており、本事業との相乗効果を狙いたい。

### ●進捗に関わる課題と思われること、懸念事項

＜課題＞

・県や市、各教育委員会、学校現場の方々と話すと、活動自体には賛同いただける一方で、本事業の全体像や狙いへの理解は浅いと感じた。

そのため、以下の3点の課題が見つかった。

1.自治体や組織の中で担当窓口が定まらず、それぞれの部署に既にやっていることの中で協力できるをお願いしていく、というスタイルを取らざるを得ない。そのため、各県・市の芸術や青少年関係の部署に加え、各教育委員会や各学校長、それぞれに一から趣旨を説明し、検討を待ち、調整していく、という作業を行う必要があり、非常に時間を取られている。

2.1に関連して、担当窓口がないため、今後の活動を円滑に進めていく上での資金的な支援を要望する窓口が、明確になっていない。

3.文化庁の委託事業とはいえ、あくまで民間団体の取り組み、という扱いを受けるため、積極的・主体的な支援を受けられる状況ではない。

＜対策＞

・各部署とのやりとりを重ねることで、各部署ができること・できないことを把握し、現状で受けられる支援をできる限り多く活用していく。

・メディアからの取材を活用し、本事業や当団体の取り組みをより多くの方々に知っていただくように広報していく。

＜要望＞

・本事業の全体像や狙いについて、文化庁の方からも採択団体が活動している地域を所管する自治体へご連絡いただき、趣旨説明や団体への支援の体制を作るよう働きかけていただきたい。

※必要な場合は、記入欄を適宜調整すること。

※取り組み概要について、写真等を入れても構わない。



# 「地域文化倶楽部(仮称)創設支援事業」 活動状況報告書

## 7月報告版

|      |                  |
|------|------------------|
| ●団体名 | ホルトホール大分みらい共同事業体 |
| ●地域  | 大分県              |

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |                              |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------|
| 具体的な実施内容（採択からこれまでの取組内容と、それについての課題や成果等が明確となるよう簡潔に記載すること）                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |                              |
| ●これまでの取組概要                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |                              |
| 持続可能性                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          | 構築された体制の確認、事業を通じて得られた知見の活用方法 |
| <p>【申込状況】<br/>今回、小学生クラスと中学生クラスを募集したが、小学生クラスは受付開始10分程度で定員に達し、50名キャンセル待ちを受付し締め切った。しかし、それ以降も問合せ・申込希望が後をたたく、多くの方をお断りする状況だった。逆に中学生クラスは、前期は約半分(14名)・後期は4名のみの申込にとどまり、空いている枠に小学生のキャンセル待ちの方をご案内した。中学生になると、運動が勉強か、という2択になる傾向にあり、美術は重要視されないことが多い。しかし、これから5年、10年とこの事業を続けていくことで、小学生の頃参加できなかった。という子が中学生クラスに申込をする様になる可能性は多いにあると考えられる。</p> <p>【継続することで得られる成果】<br/>5年、10年とずっと続けることで、今回生まれた「つながるアートスクール」という存在を市民に浸透させていく事が可能と考える。例えば、小学生で参加した子が「土日はアートスクールだよ」という認識を持つと、それがどんどん広がり、土日のアートスクールが通常となる。そうすると、小学生が中学生になっても、土日はアートスクール。となるし、高校、大学と進んでも、大人になっても「アートスクール」を認識して貰える様になる。また、続けることで、今年1年では見えなかった検証ポイントが出てくると思われるので、それを都度、実験、検証することができる。</p> <p>【今後の広がり】<br/>今回の地域文化倶楽部で一番良かったのは、やはり参加者が地域のアーティストと直接触れあえたことにある。子ども達に持続的に関わって貰う為に、今後の活動頻度をどのくらいにするのが重要。今回5名のアーティストに参加して貰ったが、例えば講師に登録をして貰って1年間を通して講師が月変わり等で実施。大分には若くて、ワークショップに長けているアーティストが揃っているという潜在的な好条件があるので、週末地域のアーティストに会って、いろんな事を楽しめる。という風になってくると面白いのではないか。そうすると週末の子供達の受け皿になることができる。それを実現するためには、大きな予算が必要となる。</p> <p>【身近な講師と知り合うことでアートが身近になる】<br/>地域文化倶楽部に参加することで、地元で活躍するアーティストと出会い、直接話をするができる。今はアーティストがSNSで情報発信をしているので、本人や保護者がアーティストのSNSをフォローし、地域文化倶楽部終了後も、ここで出逢ったアーティストのイベントや個展に参加者が足を運ぶようになる。そうすると、大分全体のアートシーンの活性化にも繋がり、参加者が日常的にアートに触れる機会も増える。そういった市民とアーティストとの「出会いの場」となり、相互関係の構築が可能となる地域文化倶楽部の存在意義は大きなものである。</p> <p>【保護者へのアプローチ】<br/>参加者だけでなく、その保護者にアプローチする。内容が良ければ保護者が口コミで広めてくれるので、続けていくことで認知度が上がり、多くの子どもが参加する事業となる。</p> |                              |
| 事業計画書との差異                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |                              |
| <p>○1人1人のカルテのようなものを作成する予定だったが、予算的にそれをするためのスタッフ数が足りず実施できていない。しかし、スタッフも積極的にコミュニケーションを取ることはできていて、講師と一緒に参加者の思いを確認できている。</p> <p>○作品は家に帰ってから次のワークショップまでに作って持って来てもらいたい。としていたが、ワークショップ終了時には、まだほとんどの作品が乾いておらず、持って帰ることが不可能であった。(作品はそのままの状態で1日乾かして、回収・保管を行った)</p> <p>○当初想定していなかった、障がいのある方(中2)が弟(小5)とお母様と一緒に参加された。端の方で横になって絵を描きたい。ということだったので、ブルーシートを1枚渡して好きな場所で描いて貰った。弟さんも同じブルーシートの中で作品制作をして、その子はお母様の助けをかりて作品制作をしていたが、問題なく実施できた。今後は障がいのある方の参加も積極的に受け入れていきたい。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |                              |
| その他報告事項                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |                              |
| <p>【回数について】<br/>ワークショップが1回で終わらず、3回ある。という所が良かった。吸収があり、体験がある。回数を重ねる毎に、モチベーションを上げていくことはとても良いことである。</p> <p>【体験内容】<br/>今回体験した内容は、ほとんどが学校では体験できない内容(技法の紹介・アーティストの制作を間近で見る・キャンバスに制作する・制作も筆だけでなく、ハケやローラー、段ボールや布の切れ端、葉、新聞等を使用)であった。アンケートにも多くの参加者が「プロのアーティストから教えて貰えて嬉しかった」「普段使わない様な道具を使用して作品制作ができ、楽しかった」という声が多かった。普段できない体験ができる。ということは、質の高い多様な芸術文化活動を体験できる場として充分機能していると言える。</p> <p>【美術へのコンプレックスをなくす】<br/>絵にトラウマがあって、それを打破するキッカケにしたい。という参加者がいたが、そういった子の受け皿になりえる取組である。学校では、どうしても「上手い絵」を褒める傾向がある。「うまい絵」を描く視覚型の子だけでなく、「いい絵」「面白い絵」を描く触覚型の子へのアプローチを行う。それによって子どもたちが変わっていくキッカケ作りの場となる。皆が同じ方向を向きがちな学校教育ではなく、多様な表現を受け入れる場所となる。</p> <p>【自由というテーマの位置づけ】<br/>普通はテーマがあって、その中で表現は自由ですよ、自分を出しなさい。個性を出しなさい。と言われてきているが、そうすると【出すべき個性】が分からなくなる。そうでなくて、自由になる為の技法を紹介し、こういう表現方法があるんだよ、と手ほどきがあることで、そっと背中を押してあげたようなプログラムとなった。自由にやれ。と投げるのではなく、大きなテーマを与え、それを実現する為にどの技法を使ったらよいかを取捨選択できる環境を作ることができ、その後の普段使わない道具との出会いがあり、その中で自分がやってみたいことをする→普段と違ったことができる→学校で書いている様な作品と全然違う→新しい発見。という道順ができる。</p> <p>【大分にいる豊かな人材】<br/>持続可能性でも少し触れたが、大分には若くてワークショップに長けているアーティストが数多く存在する。また、今回は音楽の生演奏と一緒に、行ったが、音楽家も、自分の演奏がBGM的な扱いになっても、この事業の趣旨を理解し、快く演奏してくれ、かつ、参加者がどんなに近づいても嫌な顔せず、笑顔で演奏を続けてくれた。そういった地元の人材を生かし、息の長い事業となることを願う。</p>                                                                                                                                                                                           |                              |
| ●進捗に関わる課題と思われること、懸念事項                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |                              |
| <p>○前期は会場として大ホール舞台上をメインで使用したが、その非日常空間での体験はとても好評であった。後期はメインが小ホールとなるので、空間としての非日常感の違いが参加者の満足度にどう影響するか、検証材料として注視していきたい。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |                              |

※必要な場合は、記入欄を適宜調整すること。  
※取り組み概要について、写真等を入れても構わない。

# 「地域文化倶楽部(仮称)創設支援事業」 活動状況報告書

## 7月報告版

|      |                 |
|------|-----------------|
| ●団体名 | 渋川子ども若者未来プロジェクト |
| ●地域  | 群馬県渋川市          |

具体的な実施内容（採択からこれまでの取組内容と、それについての課題や成果等が明確となるよう簡潔に記載すること）

### ●これまでの取組概要

#### 持続可能性

構築された体制の確認、事業を通じて得られた知見の活用方法

- ・準備委員会を開催(6/19)し、指導者代表とWS内容、運営体制を協議し計画を確定した。特に小中学生を対象にした体験WSについては、教育的側面を意識した実施内容及び市教委、学校への働きかけについて意見交換を行った。小中学校校長会で説明するための実施要領の策定も決定した。
- ・第1回検討・運営会議(7/2)を開催し、課題解決に向けたアプローチの目標と検証方法について意見交換を行った。
- ア)各委員は、8月から実施されるWSを個別に視察し、舞台芸術活動の実践を通じた子どもたちの人間形成の教育的価値について私見をまとめる。第2回検討・運営会議(11月開催予定)では、これらの内容を元に意見交換を行い、WSの実施方法等の中間検証について意見をまとめることにした。
- イ)地域振興WSについては持続可能な仕組みを検討するため、外部人材(指導者除く)の協力を得ながら、舞台芸術活動と地域振興をテーマにした市民フォーラムの開催について具体案を検討していくことにした。
- ・渋川小中学校校長会(7/2)で地域文化倶楽部の創設支援事業の概要を説明し、児童生徒に向けて体験WS参加を呼びかけるチラシ配布をお願いした。
- ・渋川市役所記者クラブで事業の概要を説明(7/12)、体験WS参加者募集のチラシを市民には回覧板、児童生徒は学校を通じて配布した。

#### 事業計画書との差異

- ・事業計画を具体化させた現段階では特になし。

#### その他報告事項

- ・体験WS等実施方法の確定に伴い、謝金等の執行予算の変更が生じた。

### ●進捗に関わる課題と思われること、懸念事項

- ・体験WSの参加者募集チラシを児童生徒、一般市民に向けて配布等したが、コロナ感染の終息が見込めていないうえ、小中学生のワクチン接種も進んでいない現状では、子どもたちの参加について保護者の理解・協力が得にくいと思われる。子どもたちの参加については多くを期待できない。
- 応募状況によっては、計画の変更や再募集の必要が生じる可能性があると思われる。
- なお、子ども向け事業については、11月頃に学校訪問型(授業)のWSを計画している。

※必要な場合は、記入欄を適宜調整すること。

※取り組み概要について、写真等を入れても構わない。

# 「地域文化倶楽部(仮称)創設支援事業」 活動状況報告書

## 7月報告版

|      |                    |
|------|--------------------|
| ●団体名 | 大館マーチングバンド TEDAOLE |
| ●地域  | 秋田県大館市             |

具体的な実施内容（採択からこれまでの取組内容と、それについての課題や成果等が明確となるよう簡潔に記載すること）

### ●これまでの取組概要

#### 持続可能性

構築された体制の確認、事業を通じて得られた知見の活用方法

- ・地域文化倶楽部として①地域合同型バンド(テダオーレ運営の大館ジュニアバンド)の運営②学校単独型バンド(A学校運営に外部指導者を派遣、B保護者会運営に外部指導者を派遣)を支援、今年度は各校の実態から移行可能な形態で試行している。
- ・外部からの指導者については、地域的に専門的な人材が不足しているため、年間を通して、指導も運営も可能な指導者は見つからない実態であるが、演奏会等のイベントを区切りに年間を4期に分けることで、短期間なら引き受ける地域の吹奏楽経験者も出てきた。それらの指導者を割り振り、派遣する役割を事務局が担っている。
- ・地域文化倶楽部を市として創設するために、大館市教育委員会の学校教育課・生涯学習課と連携し、スクールバンドの社会教育化と、拠点となる公民館に事務局を置けるよう組織改革を要望中である。この公民館は、社会人吹奏楽団3団体が活動拠点にしている公民館であり、年度末には、公民館独自の演奏会が地域に定着している。事務局と、行政、各社会人吹奏楽団の連携ができており、今後も協力体制が安定した運営には欠かせない。
- ・ジュニアバンドは、計画より練習日数は減ったものの、テダオーレがパートに一人ずつ入って指導・演奏することで、曲の仕上がりは格段に速い。効率的な練習方法として有効である。学校部活動における働き方改革としても、教育委員会や各校長に好事例として報告し、さらに事業の理解を図りたい。
- ・ジュニアバンドの子ども達は、学校や年代を超えて日常的に交流したり、一緒に合奏したりする触れ合いが、多様な学びの場、居場所になっている。特に、不登校や特別支援教育など配慮が必要な子ども達にとって、学校ではない活動の場が、よい影響を与えている。保護者からも、学校部活動ではない良さが実感されている。
- ・ジュニアバンドと学校単独型のスクールバンドとの合同練習を設けることで、本事業の趣旨の周知、専門的な指導を受ける機会を拡大して提供できた。



専門講師による大館ジュニアバンドと市内スクールバンドの合同指導(5月)



テダオーレによるパート毎の基礎指導や譜読み(毎週木・土曜日)



大館ジュニアバンド団員の所属校の学習発表会でのステージ、テダオーレが応援演奏(9月)

#### 事業計画書との差異

- ・①地域合同型バンド(大館ジュニアバンド)は、団員40名募集での予算案だったが、現在14名。週3～4日の練習日を設定する予定だったが、仕事を持っているスタッフ、指導者には負担が大きくなり、週2日(平日1日、休日1日)となった。その分、夏休み中に各校を会場にした練習日を設け、指導者を派遣した。
- ・②学校単独型は、5校に指導者を派遣。(計画は4校)学校外での活動は移動も課題があり、指導者派遣を希望する学校が多い。
- ・大館ジュニアバンドにとって、メインとなる発表の機会である秋田マーチングフェスティバル大館大会&音楽の広場(9月5日)が、新型コロナウイルス感染症の拡大により、やむなく中止となった。そのため、急きょ、発表の場を、ジュニアバンド参加校の学習発表会(9/26、10/17)に設定し、テダオーレとの合同演奏で参加予定である。
- ・運営会議を4月に開く予定だったが、コロナ禍により、関係者・団体には、個別に説明の機会を作り、紙面やメールでの回答により意見聴取をした。市校長会には、4月に事業説明、9月には経過説明をし、概ね理解を得ることができた。市吹奏楽連盟には、4月の総会で会長より説明いただいた。
- ・諸事情により当初計画していた指導者とは違う方に依頼することとなった。(人、人数の変更)
- ・大会の中止にともなって、使用しない予算もあるが、代替の発表の機会として、年度後半で独自の発表会を開催したいので、そちらに流用させてもらいたい。(予算の項目内で)

#### その他報告事項

- ・お便り「大館ジュニアバンド通信」は月1回の発行。活動紹介の動画を1本作成した。
- ・練習会場である公民館の利用料、冷房使用料は減免になっていることで助かっている。
- ・活動実績 6/5 大館地区吹奏楽祭 7/5 秋田県小学生バンドフェスティバル(フェスティバルの部 優秀賞)
- ・メインにしていた大会の中止により、活動の成果を発表する機会として、独自の演奏会を計画している。
- ・今後、10月中旬に、第1回のアンケート(団員・保護者・指導者・団員所属校)を実施予定。
- ・先進事例である下北ジュニア(青森県)に関わっていた方がスタッフとして加わったことで情報を得ることができた。今後は、指導者や団員同士の交流につなげたい。

### ●進捗に関わる課題と思われること、懸念事項

- ・コロナ禍による予定変更、計画変更は多々あるが、事業の目標は見失わずに代替の取組を模索していく。市外からの指導者の招聘ができない時期もある。
- ・社会教育化に向けて、各校のバンドが所有している楽器、衣装、道具類(市備品またはPTA備品)をどう管理するか
- ・予算の執行が見通せない。今年は、予算の変更等、試行錯誤を認めていただきながら、今年度の実績をもって、年間の必要な予算額の見直しを持ちたい。本事業の次年度の継続を是非ともお願いしたい。
- ・概算払いの予算が全額きていないので、年度途中には不足となる。活動資金をどこから調達するか。

# 「地域文化倶楽部(仮称)創設支援事業」 活動状況報告書

## 11月報告版

|      |                 |
|------|-----------------|
| ●団体名 | 有限会社 東京演劇アンサンブル |
| ●地域  | 埼玉県新座市          |

具体的な実施内容（採択からこれまでの取組内容と、それについての課題や成果等が明確となるよう簡潔に記載すること）

### ●これまでの取組概要

#### 持続可能性

構築された体制の確認、事業を通じて得られた知見の活用方法

コロナ禍の影響が強く、地域との連携を作り、広げることがほとんどできませんでした。  
 その中で、新座市民会館との新たな関係ができたことは特筆できることかと思います。毎年2回程度、新座市民会館主催の小中学生を対象としたワークショップの講師の依頼がきました。また、「野火止演劇クラブ」に大きな関心を寄せていただき、来年度は会場の提供などを検討していただけたこととなりました。  
 保護者についても、公演の準備に関して、衣裳製作など手伝っていただいたり、当日運営などのお手伝いをお願いしたりという関係ができてきました。

#### 事業計画書との差異

参加者の人数に合わせて、公演作品を『はらっぱのおはなし』に変更しました。  
 コロナ禍の影響により、4月の小中学校でのチラシ配布はできませんでした。  
 公演会場のキャパシティも、公立文化施設協会のガイドラインに従い、上限124席としました。  
 公演などに日程により、外部人材の大谷賢治郎氏は辞退となりました。

#### その他報告事項

11/6(土)に保護者を含む中間オリエンテーションを実施し、参加者も保護者も来年度の継続参加を望んでいるという声がほとんどだったのが、最終公演を前にして活動が順調に進んでいることを実感しました。

### ●進捗に関わる課題と思われること、懸念事項

1年目ということもあり、小学生3名、中学生2名、大人5名という形でスタートしました。次年度以降は、参加者をどう増やしていくかが課題となります。今年度のに関しては、指導がしやすい人数であり、特別な懸念事項はありません。

※必要な場合は、記入欄を適宜調整すること。

※取り組み概要について、写真等を入れても構わない。



# 「地域文化倶楽部(仮称)創設支援事業」 活動状況報告書

## 11月報告版

|      |              |
|------|--------------|
| ●団体名 | 東京邦楽器商工業協同組合 |
| ●地域  | 東京           |

|                                                                                                                                                       |                              |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------|
| 具体的な実施内容（採択からこれまでの取組内容と、それについての課題や成果等が明確となるよう簡潔に記載すること）                                                                                               |                              |
| ●これまでの取組概要                                                                                                                                            |                              |
| 持続可能性                                                                                                                                                 | 構築された体制の確認、事業を通じて得られた知見の活用方法 |
| <p>当組合の実施計画は、東京都内全域で実施を募り、初年度の取り組みはまず邦楽の学習に興味を示すかを実証するもので、その成果は診られた。</p> <p>しかしながら、コロナ禍の為、感染対策、その他想定外の事柄を学び来年度以降の対応に特に役立つ。実施校では来年度も是非実施の希望を持ち帰った。</p> |                              |
| 事業計画書との差異                                                                                                                                             |                              |
| 特に無い                                                                                                                                                  |                              |
| その他報告事項                                                                                                                                               |                              |
| <p>実施期間中において、東京都の緊急事態宣言が発令された為、予定していた授業が行えず、実施期間を延期する学校があり、来年2月まで延期された学校があります。</p>                                                                    |                              |
| ●進捗に関わる課題と思われること、懸念事項                                                                                                                                 |                              |
| <p>現在までの進捗状況はコロナ禍での感染対策を万全に行っており問題は無い。この先、コロナの再感染拡大が起きた際の学校側の対応が懸念される。その他については組合員と学校との連携は順調に推移している。</p>                                               |                              |

※必要な場合は、記入欄を適宜調整すること。

※取り組み概要について、写真等を入れても構わない。

# 「地域文化倶楽部(仮称)創設支援事業」 活動状況報告書

## 10月報告版

|      |                 |
|------|-----------------|
| ●団体名 | (株)千クリエティブカンパニー |
| ●地域  | 高知県             |

具体的な実施内容（採択からこれまでの取組内容と、それについての課題や成果等が明確となるよう簡潔に記載すること）

### ●これまでの取組概要

#### 持続可能性

#### 構築された体制の確認、事業を通じて得られた知見の活用方法

「KOCHI中高生ミュージカル部」を創設。高知県教育委員会、高知市教育委員会、高知県文化財団等の名義後援を頂き、活動を報告。また、この活動を見守り支援する社会人サポーターの構築(このサポーターと学生がつながることで、地域に根ざした自主性のある活動とし、また舞台終演後の感想や活動全般に対する評価と次年度につなげる礎となるように計る) 7月末までに高知県下の中高生を対象に、部員を募集。18名の部員が集まり、8月8日から練習をスタート。その翌週からコロナウイルス感染拡大の為、オンラインレッスンに切り替え、毎週日曜日をベースに全20回オンラインレッスン5回の活動を展開している。

講師陣による作品制作に部員たちの発想も取り入れ、進んでいる。1月9日の本番を目指し部員、スタッフ一同頑張っている。

見下の中高等学校から参加が見られ、全員積極的に活動している。男女募集したが、男子学生が一人しか集まらず、参加辞退となった。男子学生の参加も促すことを検討したい。出演だけでなく運営自体にも自主性を持たせた方が良いというサポーターズからのアドバイスも頂き、広報、練習運営などを手分けしてやっている。より、学生主体の活動となるようこれかも進めていきたい。



### 事業計画書との差異

連絡担当者 ●●●● → ■■■■に変更

5月～翌3月までの11ヶ月に月2回1回3時間の活動→8月8、22日 9月5、22日 10月3、17、31日 11月7、14、21、28日 12月5、12、19、26日 1月5、6、8日（コロナウイルス感染拡大の為変更）

社会人による実行委員会を検討していましたが、学生さんの自主力を尊重、育成するために、実行委員会自体を学生主導で展開し、社会人の皆様には、サポーターズクラブとして、学生の活動を社会人の立場からサポートしていただき、事業終了後は活動の評価も頂きたいと考えています。

### その他報告事項

特になし

### ●進捗に関わる課題と思われること、懸念事項

公演を1月に控えているが、コロナウイルス感染拡大が再び広がらないかを危惧する。

※必要な場合は、記入欄を適宜調整すること。

※取り組み概要について、写真等を入れても構わない。

# 「地域文化倶楽部(仮称)創設支援事業」 活動状況報告書

## 10月報告版

|      |               |
|------|---------------|
| ●団体名 | 小田原こども舞台芸術クラブ |
| ●地域  | 神奈川           |

具体的な実施内容（採択からこれまでの取組内容と、それについての課題や成果等が明確となるよう簡潔に記載すること）

### ●これまでの取組概要

#### 持続可能性

構築された体制の確認、事業を通じて得られた知見の活用方法

当初募集人数を20人としていた所、当クラブの役員が運営している「はじめ塾」からの発信で、21名の参加者（内訳・高校生6名、中学生9名、小学生6名）を集め目標達成出来たことは、このコロナ禍の状況下で大きな成果であり、今後も参加者を集める上で大きな役割を果たして下さる事であると思う。

参加者募集のチラシは、市の文化政策課を通し市内の文化施設へ、教育委員会を通して学校へ配布して頂いたが今回はそこからの参加希望の反応は無かった。ただ、今回の活動を市民に知ってもらうことで興味を持ってもらえるようになって考えている。

指導や発表会に協力してくれる能楽師の確保は、観世流能楽師である当団体代表から行われ、子供の稽古の進み具合に対応出来る体制を取ることが出来るようになっている。

緊急事態宣言下で公共施設の使用が難しくなる中、市内で様々なスペース運営をしている「BLEND」を使用できたことは、稽古場の確保という面において可能性を広げることが出来ただけでなく、市民に活動を知ってもらう上で可能性を広げることに繋がると思う。

「NPO法人 子どもと生活文化協会」とは予算の使い方など、必要なときにアドバイスを頂いており、今後の活動継続において更に関係を強める必要を感じている。

#### 事業計画書との差異

当初計画では稽古場所を公共施設を考えていたが、緊急事態宣言による使用制限などもあったため、民間で施設運営を行う「BLEND」のスペースを使用することで、稽古の実施を行うことが出来るようになった。

小田原市民ホールとの連携はまだ実現していないが、2月に行われる発表会の前のおさらい会で使用することを考えている。

稽古に参加出来ない子どもに対しての対応はオンラインではなく、練習曲である「和田酒盛」のDVDを入手し、それを教材とすることで自習して貰うことにした。

検討委員会は子どもの稽古の成果が見える、おさらい会や発表会のあとに開くこととした。

#### その他報告事項

特になし

### ●進捗に関わる課題と思われること、懸念事項

現在予定される23回の稽古のうちまだ9回の開催で、最終的にどれくらい子どもが出来るようになるかがまだ見えてきていないが、当初計画より発表会の内容を変え、稽古日を増やす必要を感じている。当初予算総額を超過せぬよう工夫に努めながら、より充実した稽古、発表会の実現に向けて努力する所存である。

※取り組み概要について、写真等を入れても構わない。

# 「地域文化倶楽部(仮称)創設支援事業」 活動状況報告書

## 7月報告版

|      |                  |
|------|------------------|
| ●団体名 | 劇団風の子            |
| ●地域  | 東京都八王子市美山町1320-1 |

具体的な実施内容（採択からこれまでの取組内容と、それについての課題や成果等が明確となるよう簡潔に記載すること）

### ●これまでの取組概要

#### 持続可能性

構築された体制の確認、事業を通じて得られた知見の活用方法

高尾山演劇倶楽部は小学4年生～中学生を対象に20人を対象に、八王子市の対象の全児童生徒にチラシを配布して募集をしました。その結果、体験ワークショップへの申込が26人ありましたが、新型コロナウイルス感染を心配してキャンセルがあり、20人の参加がありました。体験後の正式な申し込みが19人あり、内訳は小学生17人、中学生2人です。9/25から13回予定しており、19人全員がほとんどの回に参加できる予定です。

#### 事業計画書との差異

事業計画書では、倶楽部の第一回目となっていた9/12を、実際は体験ワークショップにあてました。それ以外は予定通りです。  
運営会議を以下のように決めました。6/5、7/25、9/25、11/28、1/23、2/20

#### その他報告事項

9/12の体験ワークショップの写真を添付します。

### ●進捗に関わる課題と思われること、懸念事項

※必要な場合は、記入欄を適宜調整すること。  
※取り組み概要について、写真等を入れても構わない。



## 「地域文化倶楽部(仮称)創設支援事業」 活動状況報告書

# 中間報告

|      |                    |
|------|--------------------|
| ●団体名 | 江戸長唄ごひいき衆          |
| ●地域  | 茨城県鹿嶋エリア／神奈川県横浜エリア |

具体的な実施内容（採択からこれまでの取組内容と、それについての課題や成果等が明確となるよう簡潔に記載すること）

## ●これまでの取組概要

鹿嶋:2021年5月～8月 Season1 「3カ月で三味線に挑戦～日本の四季を奏でてみよう」として活動開始  
→ 活動成果を披露(緊急事態宣言下のため、限定公開・動画撮影)

鹿嶋:2021年9月～11月 Season2 「3カ月で三味線に挑戦」を再度募集  
→ 活動成果を鹿島神宮において奉納演奏という形で披露

横浜:2021年10月 「3カ月で三味線に挑戦」を横浜能楽堂の協力のもと募集開始

## 持續可能性

## 構築された体制の確認、事業を通じて得られた知見の活用方法

・3カ月でチームを区切り、ゴールとして披露機会を設定することで、参加者の継続意欲の向上、団結力と結束力が生まれた。

・様々な地域の学校の先生方の人脈を通じて、関心を持ってくださる先生方に実際に三味線を体験していただくところから始め、邦楽に対する理解醸成・認知度向上を図り、今後の活動基盤を固めた。

・茨城新聞や読売新聞地域版などへのプレスリリースと取材による記事化、鹿嶋勤労文化会館、横浜能楽堂などの文化施設との連携、地元タウン誌への折込広告等を通じて、募集や広報活動を積極的に行った。

・参加者の感想・コメントをウェブサイト等で公開することで、親しみやすい仕掛けをつくった。また、活動披露の様子は動画撮影をして、今後のプロモーションに活用していくことにしている。

## 事業計画書との差異

・鹿嶋について、当初予定では、3カ月ターム1回のみでの予定であったが、緊急事態宣言により、成果披露の場が限定的となったため、あらためて秋季にも追加開催することとした。

・横浜について、当初8月から開始予定であったが、緊急事態宣言と感染拡大状況を鑑み、事態が落ち着くとみられる年明け1～3月に開催時期を変更することとした。

## その他報告事項

・鹿嶋では、鹿島神宮、横浜では横浜能楽堂という、当該地域のランドマーク、歴史的・文化的な拠りどころでの演奏体験など、特別感を持たせる工夫をすることで、参加者の満足度を上げるように努力した。

●進捗に関わる課題と思われること、懸念事項

・地域の複数の学校で展開していく、という場合には、教育委員会や学校に対して働きかけたいところ、非常に壁が高い。現場の先生方には、地元の人脈をたどってアプローチをしていくことはできるが、学校や教育委員会側の協力を得られるかどうか、地域文化倶楽部が根付くための力ギとなると思う。

・現在、東京の三味線業者にレンタル用の三味線を手配してもらっている。今後、地域で一定数の規模で展開していく場合には、例えば教育委員会が三味線を保有・貸出するなど、学校別でなく地域単位の貸出の仕組み、メンテナンス体制を徐々に構築していったほうがよいと考えている。

# 「地域文化倶楽部(仮称)創設支援事業」

## 7月報告版

|      |                 |
|------|-----------------|
| ●団体名 | 公益社団法人 教育演劇研究協会 |
| ●地域  | 静岡県             |

具体的な実施内容（採択からこれまでの取組内容と、それについての課題や成果等が明確となるよう簡潔に記載すること）

### ●これまでの取組概要

#### 持続可能性

構築された体制の確認、事業を通じて得られた知見の活用方法

実施にあたって、行政、教育委員会、現場の教員、浜松市振興財団などから、地域で演劇クラブを立ち上げることにについて、学校での現状や活動への助言などを受けた。需要の高さは感じるが、行政から予算を獲得していくのは、厳しい現状があるとの意見をいただいた。教育委員会では、部活動の地域移行へという動きがあるのは、知っているが、具体的な話は進んでいないとのこと。浜松は、音楽に力を入れている地域なので、吹奏楽などの音楽系部活は、地域活動への流れが進み始めている。しかし、結局、運営や講師などは、教師がボランティアで関わっている。そういうこともあり、他の部活への地域移行の流れが進んでいないとのこと。

そのため、今回、劇団が、受け皿となって活動していく演劇クラブを立ち上げたことは、良い流れである。だからこそ、運営体制の基盤を整えることが、継続することの最重要課題となる。今回の協力団体には、今年の活動の様子を見ながら、活動継続のために、今後、どのような協力体制が築けるかを検証してもらおう。

参加者は、募集開始1週間で定員となり、その後も、希望者からの問い合わせが非常に多かったことから、求められている事業であることは、強く感じた。また、実施2回であるが、保護者からは、「子どもがとても楽しそうに帰ってきた。」との声や、見学した保護者からは、「ぜひ、この活動を他の方にも見てもらいたい」との声をいただき、持続させなければいけないとの思いはある。

#### 事業計画書との差異

実施地域でコロナウイルス感染が急拡大し、緊急事態宣言が発令されたことによって、当初の開講予定より、一か月遅い開講となった。

参加者からの部費を当初500円と設定していたが、自立した運営へと結びつけるためには、設定が低すぎるとの協力団体からの助言を受け、月額2000円と設定を変えた。主な活動場所として、浜松振興財団の協力を得ることができ、浜松市浜北文化センター内での継続活動場所を確保したことで、成果発表の場も浜北文化センターでの実施となる予定。

#### その他報告事項

開講日に地元新聞社の取材が入りました。

→中日新聞

<https://www.chunichi.co.jp/article/344987>

→静岡新聞

<https://www.at-s.com/news/article/shizuoka/971709.html>

### ●進捗に関わる課題と思われること、懸念事項

コロナウイルス感染の急拡大による緊急事態宣言発令を受け、当初の実施予定より、1ヶ月遅れてしまった。演劇というものが、発声や接触など、活動する上で避けては通れない部分であるため、今後、また、第6波が起こった場合、予定していた活動内容を、大幅に変更しなければならない可能性もある。現時点でも、カリキュラムの組み立てが流動的になっているので、成果発表へ向けた柱は、見失わないように進めていかなければいけないと感じる。

また、浜松市や教育委員会から後援を受け、助言もいただいている事業のため、感染予防しながらの活動は、かなりナーバスになっている。来年度以降、継続に向け、協力者を広げていくためにも、活動内容を広く公開していきたいが、その機会を多くつくるのが課題。

※必要な場合は、記入欄を適宜調整すること。

※取り組み概要について、写真等を入れても構わない。

# 「地域文化倶楽部(仮称)創設支援事業」 活動状況報告書

## 7月報告版

|      |               |
|------|---------------|
| ●団体名 | 一般社団法人横浜若葉町計画 |
| ●地域  | 神奈川県横浜市       |

具体的な実施内容（採択からこれまでの取組内容と、それについての課題や成果等が明確となるよう簡潔に記載すること）

### ●これまでの取組概要

#### 持続可能性

構築された体制の確認、事業を通じて得られた知見の活用方法

地域の文化資源(文化施設・アーティスト)の協力の元で事業を執行しているので本事業を継続することは地域における子どもたちを中心に据えた文化連携に大いに寄与すると共に、子どもたち及び保護者に近隣の文化資源に目を向けてもらえる機会となることを改めて確認することが出来た。学校ではあまり触れることのない舞台芸術の体験への参加を促すため、美術や映像という近隣文化資源を絡めて共同でプログラムを検討し、その方針が結果的に舞台芸術を多角的に体験出来るプログラム内容となった(資料1・資料2)。メディアによる取材と紙面への掲載(2021年9月現在で新聞3社 地域誌2団体)、中学校との連携授業、文化団体以外との連携も行われ、一年目にして地域全体で子どもたちを支える体制の基盤作りに着手することが出来ている。今後の展開として、一般社団法人横浜若葉町計画の事業ではなく、地域による事業として認知され実施されることが持続性を担保し、ブランディングを含めた地域の積極性を引き出すために必要であると考えられる。そのための課題としては、段階的に地域移行を行っていく上での資金の調達、地域における体制作りの強化、地域における本事業の認知度を上げて参加を促すための広報の拡充が挙げられる。

#### 事業計画書との差異

既に報告済みではあるが、委託経費が申請予算から減額されたことにより開催規模を縮小する形で事業を実施している。参加料金については当初の計画では基本的には徴収しない予定であったが講師の他の仕事での契約にも関わることなので、一部を無料プログラムとして残し、講師が教えるプログラムに関しては予約制の低額有料プログラムとして実施することにした。2021年夏季のコロナ感染症の拡大、および神奈川県が緊急事態宣言の状況になったことを踏まえ、大人数での開催から少人数で一人一人の参加者と向き合う形でのプログラムの実施を行っている。また、【目標の検証】に記載した小学・中学への各施設の利用頻度のアンケートについては、コロナ感染症の拡大及び緊急事態宣言の対応で各施設及び小中学校の教職員が多忙を極めている折であり、今年は行わないこととした。同様の理由により、また事業拡大に伴う関係者の拡大や柔軟な対応を行うため検討会議も事業終了後に行い意見交換を行うこととした。それらを踏まえて参加者・地域の声をまとめた冊子は発行する予定である。

#### その他報告事項

状況を踏まえつつの開催を行っているので、当初予定したプログラムの9月分に関しては11月以降への延期開催を決定した。

### ●進捗に関わる課題と思われること、懸念事項

小学校2校・中学校2校・近隣文化施設と連携して広報を行っているが、民間施設ということもあり教育関連団体(特に公立の小・中学校)に広報協力を求めることが非常に難しいと感じている。プログラム内容は参加した子どもたちや保護者から高い評価を得ることが出来ているので、1年目での実績を何らかの形で公的にバックアップして頂ければ今後の本事業及び地域文化倶楽部(仮称)の展開として大きく前進することが出来るかと思う。

コロナ感染症の拡大が予想以上に近隣の保護者たちの参加への警戒心を高くしていることもあり、次年度以降にオンラインを活用したプログラムを実施することも見据えて本事業を紹介するWeb上のサイトを作ることを検討している。

※必要な場合は、記入欄を適宜調整すること。

※取り組み概要について、写真等を入れても構わない。

# 「地域文化倶楽部(仮称)創設支援事業」 活動状況報告書

## 10月報告版

|      |                 |
|------|-----------------|
| ●団体名 | 特定非営利活動法人やんちゃんこ |
| ●地域  | 兵庫県尼崎市          |

具体的な実施内容（採択からこれまでの取組内容と、それについての課題や成果等が明確となるよう簡潔に記載すること）

### ●これまでの取組概要

持続可能性 構築された体制の確認、事業を通じて得られた知見の活用方法

・昨年度、立ち上げた子どもからシニア世代のメンバーは、引き続き今年度も劇団員として活動に参加。新たに、昨年の旗揚げ公演を観にきていた小学生やチラシを見てダンスが得意で劇に参加したいという小学生がメンバーとなる。また、発達特性を持つ子どもたちの支援としてきていたスタッフも劇活動自体に参加。当法人の子育てサークルに來ている親子の祖母が今まで活動していた劇団を辞めて近くでぜひ参加したいとやんちゃんこ劇団に参加。70代のメンバー二人目となった。

・コロナ禍の中、初回のように広く劇団員募集をすることを控えた。しかし、自然とつながりの中から新しいメンバーが増えたことは良かったと思う。

・子どもと大人が一緒になって、一つの作品を創り上げていくという同じ目標に向かって活動することで、世代間を越えての関わり方が見られ、お互いが助け合ったり、教え合ったりしている様子が見うけられる。

・学校でトラブルがあり、気持ちが学校にうまく向いていない子どもであっても、劇団の練習には来たいと参加しているケースがあり、自分を認めてもらえる居場所としての役割も果たしていると感じている。

### 事業計画書との差異

・新型コロナウイルスの感染予防対策としてのまん延防止等重点措置が4月から実施され、またそれが緊急事態措置へと移行していったことから、劇団の練習として集まることを控えなければならない状態になった。そのため、当初計画していた日程がずれていき、練習開始が遅れたことから、ワークショップ及びウォーミングアップの期間が十分に取れていない。そのために作品の練習も毎回、厳しい中で頑張っているという状態である。

・コロナ禍の状況であったため、募集については市内小学校へのチラシ配布は中止とした。ただ、ポスターや募集チラシを当法人での活動中には配布をして呼びかけは実施した。ホームページによる広報も実施した。

・劇団員の中から自主的に声が上がリ、コロナ禍の中で実施期間が短くなる中でも余裕を持って活動をさせてあげたいという気持ちから、活動費について検討がなされ、昨年度の会費から子どもも大人も各500円増やした会費額へと変更をした。(変更月会費額 子ども1500円、大人2000円)

### その他報告事項

・活動の様子・風景



ワークショップ風景



お稽古前の柔軟体操



台本読み

### ●進捗に関わる課題と思われること、懸念事項

・今年度もコロナの影響が続くとは考えていなかったことから、練習時においても感染対策をしっかりと実施していくよう、団員一同にも毎回声がけと消毒などの徹底に注意している。

・練習会場も、いつもの利用人数の半分という規制があるために、思うような場所が使えない実態がある。

・第2回公演を1月10日に予定をしているが、また感染拡大の波がくることのないよう無事に発表できるかと、それが今の一番の懸念事項である。

※必要な場合は、記入欄を適宜調整すること。

※取り組み概要について、写真等を入れても構わない。



# 「地域文化倶楽部(仮称)創設支援事業」 活動状況報告書

## 9月報告版

|      |       |
|------|-------|
| ●団体名 | 大手前大学 |
| ●地域  | 兵庫    |

具体的な実施内容（採択からこれまでの取組内容と、それについての課題や成果等が明確となるよう簡潔に記載すること）

### ●これまでの取組概要

#### 持続可能性

#### 構築された体制の確認、事業を通じて得られた知見の活用方法

受講者の募集方法はにおいて、当初の計画では西宮市教育委員会を通じて市内全域の小中学校に要綱を配布・設置してもらう予定だった。そこで本学と関わりのある西宮市 産業文化局 地域学習推進課に仲介を依頼したところ、更に効率のよい告知手法をご提案頂いた。それは、西宮市地域学習推進課が主催する「宮水ジュニア」<https://bit.ly/3i8aPyS> と称する、小学4年生～中学3年生を対象とした公開講座で、市内全域の公立小中学校に年2回(4月・9月)定期配布されるリーフレットに掲載してはどうかというもの。そこで、この提案に便乗してもらうことにした。募集の手段・抽選方法も総て宮水ジュニアのルールに準ずることが条件であったため、こちらが懸念材料として挙げていた①告知の方法、②選抜手段の両方を一気に解消することが適った。締切は10月5日(火)であるため、目下募集中。これで、計画通りにプランを進めることができるようになった。

|           |                                                               |
|-----------|---------------------------------------------------------------|
| <b>36</b> | <b>タイル制作</b> 『タイルアートと磁器粘土作り』                                  |
| 内容        | 美術系のタイルに自由に絵付けをします。磁器粘土の作品にも絵付けが可能なタイルを使用して、楽しい作品づくりを楽しみましょう。 |
| 会場        | 西宮浜公民館                                                        |
| 定員        | 8名                                                            |
| 費用        | 必要(1,500円)                                                    |
| 曜日        | 土曜日 午前10時～11時30分 (11月13日 開講)                                  |
| 対象        | 4回程度                                                          |
| 対象        | 小学4年生～中学生                                                     |
| 講師        | 西宮浜公民館グループ(マジリカ)会員                                            |

|           |                                                                  |
|-----------|------------------------------------------------------------------|
| <b>38</b> | <b>演劇ワークショップ</b> 『演劇をつくらう～せりふ・歌・からだの表現～』                         |
| 内容        | 表現は、相手にちゃんと受け止めてもらえる手段です。せりふ・歌・からだの表現を身につけて、表現活動の楽しさを知ってもらいましょう。 |
| 会場        | 大手前大学CELLフォーラム                                                   |
| 定員        | 20名                                                              |
| 費用        | 必要                                                               |
| 曜日        | 土曜日 午前10時～11時30分 (11月13日 開講)                                     |
| 対象        | 全13回                                                             |
| 対象        | 小学4年生～中学生                                                        |
| 講師        | 大手前大学 健康芸術学部 准教授 瀬口 昌生                                           |
| 日程表       | 38.演劇ワークショップ日程の詳細はこちら                                            |



点線で切り取ってお申し込みください。

| 宮水ジュニア申込書 |                    |
|-----------|--------------------|
| 参加者       | フリガナ<br>名前         |
|           | 学校名                |
|           | 学年                 |
|           | 住所                 |
|           | 連絡がつく電話番号<br>FAX番号 |
| 保護者名      | 講座番号               |
|           | 講座名                |
|           | 会場名                |

※申込締切: 令和3年10月5日(火) 消印有効

#### 保護者の皆様

#### 特別な配慮や支援が必要な児童生徒の参加について

特別な配慮や支援が必要な場合は、お申し込みの際に、地域学習推進課までご連絡ください。講師との連絡調整や、受講中の支援及び作業補助を行っていただくボランティアを配置したり、保護者等の同伴をお願いするなど、できるだけ受講していただけるよう必要に応じて事前に打ち合わせを行います。



編集・発行/西宮市地域学習推進課 発行年月/令和3年9月

#### 令和3年度

## 体験しよう! 宮水ジュニア (後期募集)

宮水ジュニアには、みんなが楽しめる講座がそろっています。やってみたいのを見つけて、宮水ジュニアで楽しみながら、体験してみませんか。

#### ● 宮水ジュニアとは ●

西宮市では、主に土曜日に、公民館等で、子どもたちを対象とするいろいろな文化的講座を行います。講師には、ボランティアとして専門的な知識や技術をもった方々を迎え、地域の教育力を生かしながら、子どもたちの異年齢交流を図ります。

- 開 講 令和3年11月～令和4年3月
- 対 象 市内在住、在学する小学4年生から中学生(講座によって多少異なります)
- 受 講 料 無料(材料費が必要な場合もあります)
- そ の 他 内容・会場・実施日・開講時間・講師・材料費等についての詳細は裏面をご覧ください。会場までの行き回りの安全は、それぞれの参加者ご自身でご注意ください。申し込みは、申し込みの要です。

#### ● 申し込みの方法 ●

- 申込方法 下記必要事項を記入のうえ、Vキー・FAX・E-mailのいずれかでお申し込みください。切手を貼らずにお近くの公民館・図書館へ直接お持ちください。申し込みの要です。

【必要事項】  
参加を希望される方のお名前・フリガナ・学校名・学年・住所・連絡がつく電話番号・FAX番号・保護者名・受講希望講座の講座番号・講座名・会場名

- 申 込 先 〒663-8204 西宮市高松町4番8号 地域学習推進課 宮水ジュニア 宛

F A X 0798-67-1568

E-mail vo\_chukou@nishi.or.jp

- 申込締切 令和3年10月5日(火) 消印有効

- 受講決定 受講決定者には締切後に受講日・受講会場・持ち物等を明記した受講通知を送付します。申し込み本人以外での受講はできません。

- 問合せ先 地域学習推進課 T E L 0798-67-1567

- そ の 他 応募者が多数の場合には抽選となります。複数講座へのお申し込みは、ご連絡ください。なお、いただいた個人情報講座にかかる連絡・目的以外では使用しません。

- ホームページ <http://www.nishi.or.jp/>

【ホームページ】文化スポーツ部(市民生活)→体験しよう! 宮水ジュニア

ホームページに掲載されている日程を確認してください。

#### ● 新型コロナウイルス感染症について ●

- ① 新型コロナウイルス感染拡大状況によっては、講座を中止する場合があります。

- ② 発熱や咳、咽痛などの風邪症状や、体調に不安のある方は、参加できません。

- ③ 講座中は、マスクの着用や手指消毒の徹底、こまめな換気など、感染症予防対策を行います。



主催/西宮市地域学習推進課



# 「地域文化倶楽部(仮称)創設支援事業」 活動状況報告書

## 7月報告版

|      |                  |
|------|------------------|
| ●団体名 | 特定非営利活動法人ダンスボックス |
| ●地域  | 兵庫県神戸市           |

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |                                                                                                                                                                 |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 具体的な実施内容（採択からこれまでの取組内容と、それについての課題や成果等が明確となるよう簡潔に記載すること）                                                                                                                                                                                                                                                                      |                                                                                                                                                                 |
| ●これまでの取組概要                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |                                                                                                                                                                 |
| 持続可能性                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        | 構築された体制の確認、事業を通じて得られた知見の活用方法                                                                                                                                    |
| <p>【構築された体制の確認】</p> <p>神戸市長田区南部(新長田)には、数多くのアーティストが居住し、様々な表現形態を取り扱う文化施設が複数ある。今回の事業を通して、施設や人を繋ぎ、連携する体制をつくることが出来ている。このうちの一部のメンバーで、「下町芸術祭」を共に運営するなど、より深く関わり合いながら、進めていくことが出来ている。</p> <p>【事業を通じて得られた知見の活用方法】</p> <p>小学高学年から中学生にかけての、思春期特有の言語化しづらい状況に対して、様々なアートの表現方法は、自らの感情やモヤモヤに形を与え、客観視を促すような可能性がある。プログラムを通じて、実感として得ている知見である。</p> |                                                                                                                                                                 |
| 事業計画書との差異                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    | <p>コロナ禍により、当初予定していた開始時期から、大幅に日程を変更して実施している。また、回数も当初の予定より減らしている。</p> <p>また、人が集まる場、協働する場への参加に抵抗を示す親や中学生も多かった。とくに緊急事態宣言中は、神戸市立の学校の部活動は中止である中、当事業を進めることは出来なかった。</p> |
| その他報告事項                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      | <p>当事業は、年度の後半に大きくプログラム日程をずらしたので、現時点ではまだ始動して間もないため、事業を通しての報告は、もう少し時間が必要である。</p>                                                                                  |
| ●進捗に関わる課題と思われること、懸念事項                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |                                                                                                                                                                 |
| <p>多言語版でチラシを制作し、関係各所にチラシを配布してまわった。校区内の中学校に、別事業でダンス・ワークショップに出向き(学校の授業の一環として)、顧問の趙恵美さんを講師アシスタントとして同行していただき、当事業の広報を行った。また、近くのフリースクールや、母語教室などで広報を行ったが、参加を得るのは難しい状況だった。コロナ禍の影響もあると言える。中学生に直接的に届く広報で必要な言語化や方法が次年度に向けての課題と考えている。</p>                                                                                                |                                                                                                                                                                 |

※必要な場合は、記入欄を適宜調整すること。

※取り組み概要について、写真等を入れても構わない。

# 「地域文化倶楽部(仮称)創設支援事業」 活動状況報告書

## 10月報告版

|      |          |
|------|----------|
| ●団体名 | 有限会社青年劇場 |
| ●地域  | 東京都新宿区   |

具体的な実施内容（採択からこれまでの取組内容と、それについての課題や成果等が明確となるよう簡潔に記載すること）

### ●これまでの取組概要

#### 持続可能性

構築された体制の確認、事業を通じて得られた知見の活用方法

・本事業を新宿区内の中学生に広めていく為に、新宿区と新宿教育委員会の後援をとり、区内中学校すべての生徒にチラシを配布していただきました。その結果、チラシを見て4名の生徒さんからの申し込みがありました。新宿子ども劇場には、今回の事業の外部有識者として、ワークショップにも参加していただきながら、アドバイスしていただく事をお願いし、承諾していただきました。

・教育委員会の担当者とも相談して、参加者を増やすために各学校のスクールコーディネーターの皆さんへの働きかけや、校長会へのアピールなどを行いました。

・新宿区内の私立中学校に対しても、劇団員の知り合いを通して申し入れを行いました。先生方からは、行事も中止延期になっており生徒同士触れ合う機会も少なくなっている今、本事業に対しては積極的に受け止めて下さり、生徒さんへの働きかけを行ってくださいました。

#### 事業計画書との差異

10月の時点で参加者が4人なので、引き続き参加者を募集しています。途中から参加する人も出てくることが考えられるので、その場合プログラムの変更もあります。

#### その他報告事項

ワークショップの日程は、11月6日7日27日28日12月11日12日17日18日 の8回を予定しています。

### ●進捗に関わる課題と思われること、懸念事項

ワークショップの日程が、11月から12月の土曜日曜という事で、学校行事と重なってしまう事もあり、参加するハードルが高くなってしまったようです。また全ての回に参加するという条件も、参加を躊躇ってしまうようです。日程の設定は今後の検討課題です。

※必要な場合は、記入欄を適宜調整すること。

※取り組み概要について、写真等を入れても構わない。



# 「地域文化倶楽部(仮称)創設支援事業」 活動状況報告書

## 7月報告版

|      |         |
|------|---------|
| ●団体名 | プレイングラボ |
| ●地域  | 大阪市     |

具体的な実施内容（採択からこれまでの取組内容と、それについての課題や成果等が明確となるよう簡潔に記載すること）

### ●これまでの取組概要

#### 持続可能性

構築された体制の確認、事業を通じて得られた知見の活用方法

・演劇活動を通して、子どもたちが主体的に意見を出し合いながら、目標に向かって協働している。

・コロナ禍での芸術活動の在り方について、メンバー・保護者らとも積極的に意見を交換し、ICTツールを最大限に活用した部活動を行っている。  
（対面と遠隔の、どちらからでも参加できる双方向を繋いだハイブリッド部活形式を採用。  
子どもたちの交流の場や表現の場を継続的に提供し、コロナ禍での安全と、居場所づくりを共存させた部活動運営を意識している。）

#### 事業計画書との差異

・「学校・教育委員会を巻き込んで展開させ」（事業計画書(様式2)より）とあるが、採択決定から、学校・教育委員会への協力を得るためのプレゼンテーション期間が短かったこと、緊急事態宣言下において外部の人間を受け入れることの困難さ等の理由から、今年度は学校・教育委員会の協力機関を得ることができなかった。  
（地域の芸術振興スタジオに協力を得て、学校外での文化活動の場としての役割は問題なく果たしている。）  
・当初、対象を原則小学生以上としていたが、強い入部希望により、年長児より受け入れを行っている。  
（幼稚園教諭有資格者が担当にあたっている。  
幅広い年齢の子どもたちを受け入れたことにより、世代間コミュニケーションの問題を克服する場となっている。）

#### その他報告事項

### ●進捗に関わる課題と思われること、懸念事項

進捗に関わる課題として、やはりコロナ禍での活動の制限があることや、常々変わる状況に臨機応変に対応する必要性が挙げられる。  
当部活でも発表会の延期等が発生しており、子どもたちのモチベーションを高めたまま自身の課題を克服する仕組みづくりを模索している。  
今年度中に、地域の人々との交流、保護者への対面での成果発表の場を設けることが目標ではあるが、現段階ではオンライン配信の公演とする予定である。  
引き続き子どもたちの安全と健康を最優先に、各方針に従って運営を行っていく。

※必要な場合は、記入欄を適宜調整すること。

※取り組み概要について、写真等を入れても構わない。

# 「地域文化倶楽部(仮称)創設支援事業」 活動状況報告書

## 7月報告版

|      |                   |
|------|-------------------|
| ●団体名 | 一般社団法人 全国邦楽器組合連合会 |
| ●地域  | 秋田県秋田市            |

具体的な実施内容（採択からこれまでの取組内容と、それについての課題や成果等が明確となるよう簡潔に記載すること）

### ●これまでの取組概要

#### 持続可能性

構築された体制の確認、事業を通じて得られた知見の活用方法

(一社)全国邦楽器組合連合会が「地域和楽器文化倶楽部」を設立、その事業として「秋田市伝統音楽箏曲クラブチーム」を立ち上げ、地元秋田の中学生に対し、和楽器「箏曲」のクラブを立ち上げるため、「秋田市教育委員会」「秋田市PTA連合会」「秋田県芸術文化協会」「秋田県三曲協会」の後援をいただき、活動開始。秋田市教育委員会の協力のもと、秋田市全中学校(1年生・2年生)にクラブの紹介PRチラシを配布。  
生徒募集が難航したため、自治体の施設・企業・大型事業所・一般広告・地元経営者団体への協力要請・秋田市民便り・プレスリリース(新聞・フリーペーパー)・ラジオ出演・子供関連事業にデモンストレーション演奏等参加でPRをしている。文化庁に進捗相談した際に文化庁中山様より秋田市校長会にて事業概要の「再」説明の機会をいただき、現在新型コロナウイルス感染症対策により部活動の休止である為、体験教室は厳しいそのため、お昼の黙食時間に放送用のPR CD製作し(チラシ再校正)、放送と同時にチラシ配布の依頼中。

#### 事業計画書との差異

- ・生徒募集が予想よりも難航
- ・契約後5月中旬より活動開始、生徒の大半が既に部活動に所属している
- ・現場教職員の方の理解、中には営業活動とみなされる。
- ・講座スケジュールの修正

#### その他報告事項

### ●進捗に関わる課題と思われること、懸念事項

- ・生徒人数集め
- ・ターゲットである「中学生」の実態調査(部活以外にも2・3習い事をしている)・中学生の趣向など
- ・教職員への本事業の理解
- ・更なるPR活動

※必要な場合は、記入欄を適宜調整すること。

※取り組み概要について、写真等を入れても構わない。

# 「地域文化倶楽部(仮称)創設支援事業」 活動状況報告書

## 中間(6月7月)報告版

|      |                         |
|------|-------------------------|
| ●団体名 | 株式会社オフィスワン・ツー(ワンツーワークス) |
| ●地域  | 東京都                     |

具体的な実施内容 (採択からこれまでの取組内容と、それについての課題や成果等が明確となるよう簡潔に記載すること)

### ●これまでの取組概要

| 持続可能性                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       | 構築された体制の確認、事業を通じて得られた知見の活用方法 |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------|
| <p>①(目的)現代演劇に触れる機会の提供…(実施内容)演劇のDVD鑑賞、戯曲を使ったレッスン(確認)ジャンルが違う3作品の紹介をし、興味を深めてもらうことができた。実際に演じることで、楽しさと難しさを感じてもらうことができた。(活用)さらに、生の舞台を鑑賞する機会を与えることができた。参加者のほとんどは、演劇を見る機会が少ない、シェイクスピア等の有名な演劇人を知らない、という事実を知り、さらに紹介する機会を持つべきと考えている。</p> <p>②(目的)演技力のレベルアップ…(実施内容)文学作品を使った朗読、戯曲を使ったレッスン、身体管理能力を高めるためのレッスン(確認)感情を出せるようになった。映像演技と舞台演技の違いを理解できた。身体をコントロールする力が弱い。(活用)参加者は皆、真面目で理解が早いので、成長に合わせた課題をどんどん出し、さらなる成長を促したい。</p> <p>③(目的)芸術活動による精神の成長…(実施内容)全員でのシアターゲーム、二人組、または4人組で行う演技レッスン(確認)心を開き、協同の楽しさを感じてもらうことができた。一人でできない演劇の練習の場を提供できた。(活用)参加者は、さらに上を目指したいという気持ちを持っているので、苦手なこと難しいことに挑戦させ、自分の成長を実感してもらう。</p> <p>④目標検証…(内容)参加者・見学者アンケート、講師の実施記録、会議→(確認)指導力を高めたいと考えている学校の先生に、プロの演出家のレッスンを見学する機会を与えられた。参加者が、さらに演技力を高めたいと思っていることがわかった。実施報告書により講師間の情報共有がスムーズにできた。中高生の参加を促す方法について意見交換ができた。(活用)アンケートを参考に、今後の内容を検討する。様々な方法で参加を促す。</p> |                              |

### 事業計画書との差異

・コロナ禍での実施のため、密を避ける必要性を感じ、アシスタントを二名から一名に減らした。そのため、準備・消毒・清掃をアシスタント一名と講師が行うこととし、勤務時間を延長した。※電話にて事務局に報告済。

・コロナ禍のため、参加者が集まりにくい、対象を「杉並区・中野区・新宿区」としていたが、「都内全域」の中高生に拡大した。今後は、状況が許せば、他県からの参加も促したい。※電話にて事務局に報告済。

・生の舞台を鑑賞する機会を設けた。一つは埼玉芸術総合高校の公演で無料であり、もう一つはワンツーワークスの公演で招待することができた。今後、他の団体の公演を、課外レッスンとして観劇する機会を持ちたいと考えている。※電話にて事務局に報告済。

### その他報告事項

○見学者アンケートより

・「(参加理由)中高生への指導の考え方・方法論などについて考えたい」「セリフを使った入念なレッスンは、うらやましい充実ぶりでした」「(印象に残ったレッスン)シアターゲーム、観劇をする際に役者として何を意識すべきかの話」

○参加者アンケートより

・「演劇部ではあまりできない動きや発声方法ができて、すべてのレッスンが楽しかったです」「全くの初心者だったけれど、少しずつ演劇がどういうものか腹式呼吸の仕方などつかめてきました」「観劇することの大切さを知った」「立っての台本読みがやはり殻を破るために奮い立ちました。しっかり否定もしてくださって逆に燃えました」

### ●進捗に関わる課題と思われること、懸念事項

○新型コロナウイルス感染拡大状況について

・感染対策として、1時間ごとの換気、床消毒、こまめな手指消毒、不織布マスクの着用をしているが、通うために電車で移動を伴うので不安はある。

・最初はお互いに体の接触のないワークから始め、だんだんと二人組のワーク等を取り入れていった。

・宣伝しづらい。

○参加人数について

・6月と7月は4名のみ。1名、9月から参加予定。

・通年の活動と認識されていて、途中からの参加がしにくい印象がある。→まず一回の参加も可とする。

・コロナ禍のため、会場の広さを鑑み、最大を10名とするべきか検討中。→今後の様子を見ながら進める。

○検討・運営会議での意見

・有識者から「引きこもり児童や不登校の中高生を積極的に参加させるのはどうか?」という意見があったが、この事業の目的は演劇のすそ野を広げる、文化芸術活動の機会を広めるといことであるため、目的の異なる社会包摂活動にすべきではないという点で、講師全員の意見が一致した。

※必要な場合は、記入欄を適宜調整すること。

※取り組み概要について、写真等を入れても構わない。

# 「地域文化倶楽部(仮称)創設支援事業」 活動状況報告書

## 11月報告版

|      |                |
|------|----------------|
| ●団体名 | 京島長屋文化連絡会      |
| ●地域  | 東京都墨田区京島3-60-5 |

具体的な実施内容（採択からこれまでの取組内容と、それについての課題や成果等が明確となるよう簡潔に記載すること）

### ●これまでの取組概要

#### 持続可能性

構築された体制の確認、事業を通じて得られた知見の活用方法

本取組は、子どもの創造性を地域で育むことを具現化することを目指している。取組は「キラキラキッズクラブ(キラキッズ)」と愛称で呼ばれるようになり、下町人情が残る向島エリアで、当初から想定した次の団体と、協働の体制を確立し、事業を進めることができてきている。千葉大学環境デザイン研究室は、研究室の学生が研究のテーマを立て、取組の実践する立場になっている。一般社団法人SSK(旧すみだ青年協力会)は、ジュニアリーダーの高校生が、1名ではあるが毎回実践の手伝いに参加し、大学生と子どもたちの良い繋ぎ手となっている。向島橋銀座商店街協同組合は、商店街のイベントを協働して行ったり、商店街の1店舗の店主が、毎回活動に参加し、商店街として子どもの活動を見守る体制ができている。すみだ向島EXPO実行委員会は、本年のEXPOの企画と連動した実施を行い、アートイベントとの協業が可能となっている。また、アーバンデザインセンターすみだ(UDCすみだ)とは、まだ具体的な協働による実績はできていないが、2022年3月に予定されているUDCすみだの設立1周年イベントで、子どもを対象としたイベントが千葉大学墨田サテライトキャンパスにて予定されており、そのプログラムの中心にキラキッズの活動が含まれている。

#### 事業計画書との差異

子どもに関わる活動は、コロナ禍においては極めて実行が難しい状況であった。そこで、当初の計画では、地域のアートを巡る、ということを目指していたが、具体的には1回試験的に実施したが、蔓延防止のための対策をすることが困難であると判断し、拠点とした京島駅(元小倉屋米店)で蔓延防止対策を可能な限り対策をした上で実施した。取組の内容は、当初想定していた、子どもの創造性を育み、子どもの社会的自主性が実現できるプログラムを考え、子どもが作品を作って、子ども同士が本取組ないで流通する通貨を使って、売買をすることを実践した。毎週月曜と金曜日に、15時から18時にかけて実施し、延べ回数54回(11月8日時点)延べ参加者484人、平均約9名、という状況となっている。会員制とせず、自由に子どもが変わることが子どもの創造性を育むと考えているため、コアメンバーが自然に発生することを想定していたが、10名ほど固定することを期待したもの、実際は、ある周期でコアメンバーが替わるという現象が生じることがわかり、新しい発見であった。また、商店街の取組と協働し、11月に「スミダキッズクリエイティブタウン」の開催を予定していたが、こちらもコロナ禍により開催が延期され、12月4～5日で行うこととなっている。

### その他報告事項

取組の様子の写真を示す。

左から、子どもによる夏祭り、お菓子を作って価値を高めるための装飾を施す、作られたものに値札をつけて売買をする



### ●進捗に関わる課題と思われること、懸念事項

コロナ禍において、子どもを集めて活動することは、想像以上に難しい状況であった。しかし、この難しさは、コロナ禍によって元々ある難しさを際立たせたことでもありと考えられ、これらは今後の展開の課題になると思われる。

具体的には、地域の中で子どもを集めることに対する信頼をどのように得ていくか、ということである。コロナ禍であるからこそ、どこまで蔓延防止についての配慮がなされているかということが強く求められ、保護者や、地域の方から、この状況でやるべきではないという苦情に近い連絡を得ることもあった。これは、そもそも信頼を得られていれば、そこまで深刻に言われることもないだろう。

習い事などのように、会員制で料金を取る、というようにすれば、親の都合によって子どもが参加することが決められ、親は安心して子どもを送り出すことになる。しかし、それは、子どもにとっての自由で主体的なあそびにはならない。そこには子どもの自由さに基づく創造性も期待できない。今回は、夏休みのあとになったが、小学校と地域PTAにも協力してもらい、取組の説明を文章で行ったが、その効果ははっきりとはしていない。今後も持続的に取組をする中で、地域に浸透することを心がけていくことが重要だと考えている。

※必要な場合は、記入欄を適宜調整すること。

※取組概要について、写真等を入れても構わない。



## 11 月報告版

|     |                       |
|-----|-----------------------|
| 団体名 | 合同会社 TC Entertainment |
| 地域  | 高知県                   |
|     |                       |

| 具体的な実施内容 （採択からこれまでの取組内容と、それについての課題や成果等が明確となるよう簡潔に記載すること）                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |                              |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------|
| 事業計画との差異                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |                              |
| <p>2021年5月より各市町村で月に一度の頻度で県下6市町村を周りながら、参加費無料の文化教室を開催する予定であったが、新型コロナウイルス感染症の動向が一進一退するなか、予約していた会場から開催を断られる等という事態も発生し、事業の実施スタートが切れない期間が続いた。</p> <p>その為、代案としてzoomを活用したオンライン無料文化教室を地域文化倶楽部事務局に提案し、合意を得た上で9月より「TCE未来教室オンライン」として事業をスタートした。</p> <p>11月23日現在までに、4回のオンライン無料教室を開催した。</p> <p>オンラインでの開催は予定外ではあったが、この代案で事業を実施したことにより、これからの時代に沿った運営システムとネットワーク作りができています。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本来であれば県下6市町村をまわる計画であったが、オンライン開催にすることにより、1度の開催において広く参加者を募集できることとなった。</li> <li>・講師においては、移動時間などの拘束時間が節約されたため、授業内容などを熟考する時間が増え、良い効果がみられる。</li> <li>・ホームページURL <a href="https://tce-kochi.com/mirai2021/">https://tce-kochi.com/mirai2021/</a></li> </ul> |                              |
| 持続可能性                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     | 構築された体制の確認、事業を通じて得られた知見の活用方法 |
| <p>【構築された体制等】</p> <p>事業の運営について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・講師4名(内一名は技術スタッフと兼任)</li> <li>・zoomに関する技術スタッフ3名(参加者の管理/画面操作の管理/音響の管理)</li> </ul> <p>事業の実施について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・zoomにて実施</li> </ul> <p>事業の周知について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ポスターによる周知</li> <li>・1分程度の告知用動画を各SNSにて拡散(ホームページに記載)</li> <li>・HP、運営と講師の各SNSによる広報</li> </ul> <p>【事業を通じて得られた知見の活用方法等】</p> <p>①オンライン開催ということで参加への障壁が高いと思っていたが、ホームページやSNS、お問い合わせフォームを活用することにより、携帯一つで簡単に参加できる催しというイメージと実態をつくることができた。</p> <p>実際本事業で「始めてzoomを使ったけど簡単だった」などという声も多く、広報の仕方によってはオンラインの参加障壁が下がるということを実感した。</p>                                         |                              |

②以下を実行することにより単調なwebミーティングではなく、「参加したい」というモチベーションを高める魅力的な催しにできている。

- ・進行役をバーチャルキャラクターにする
- ・BGM、効果音を活用する。
- ・動画や画像、スライドショーを効果的に差し込む
- ・プラットフォーム上の機能を理解し使いこなす(スタッフによる事前ミーティング4度開催)
- ・開催授業の特性に合わせ、必要な技術・機器を活用する
- ・オンライン開催におけるオンライン授業に対する講師の事前準備(授業プラン、資料の用意など)
- ・各回の進行台本の用意と事前打ち合わせ。

#### 【持続可能性】

体制の構築と教室開催のノウハウ、それに必要なスタッフ・講師のスキルなどを確立できたので技術的には持続的な開催が可能である。ただし、報償費・人件費などの資金面が懸念点であり次年度以降も継続して開催するならば予算の確保が課題である。

#### その他報告事項

#### 進捗に関わる課題と思われること、懸念事項

##### 【課題】

- ・単純な会議やセミナーの様な一方通行の事業にしておらず、双方向でコミュニケーションが取れる参加型の形式にしている為、オンライン開催の場合、現時点でのノウハウでは参加可能人数がオフライン時の3分の2程度に縮小されている。(大人数が一斉にマイクをOnにする場合の音声の混雑や、一人一人に質の高い授業を提供できるクオリティや時間配分を守る為。)
- ・オンライン開催の場合、PC操作やプラットフォームの仕様の把握など、運営スタッフに少し専門的な技術が要求される。(現状必要人員ギリギリでの運営)

##### 【懸念事項】

新型コロナウイルス感染症の影響により、各会場の使用を断念し予約キャンセルとなっている。その為、本事業がオフラインの対面型で問題なく開催できる世情になったとしても、すでに会場のスケジュールが埋まっており会場予約がとれない可能性がある。

# 「地域文化倶楽部(仮称)創設支援事業」 活動状況報告書

## 10月報告版

|      |             |
|------|-------------|
| ●団体名 | 袋井市文化協会グループ |
| ●地域  | 静岡県袋井市      |

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |                              |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------|
| 具体的な実施内容（採択からこれまでの取組内容と、それについての課題や成果等が明確となるよう簡潔に記載すること）                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |                              |
| ●これまでの取組概要                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |                              |
| 持続可能性                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           | 構築された体制の確認、事業を通じて得られた知見の活用方法 |
| <p>■体制の確認</p> <p>【全体】歌、ダンス、演技の講師が決定し、それぞれの活動と連携を開始した。また、本番で出演するゴスペル、弦楽演奏とも連携を始め、舞台演出や舞台担当者などとも打合せが始まった。</p> <p>【進捗】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>合唱：4月から毎週土曜日2時間の練習を重ねている。（緊急事態宣言中などは一時練習を中止した。）市民音楽劇本番で歌う「耳をすまして」の練習をはじめた。</li> <li>演技：11月のオーディションに向けて9月から情報を解禁し、オーディションの内容や12月開始の練習に向けて担当講師と検討を重ねている。</li> <li>ダンス：当日出演する予定のダンスチームは貸館事業として毎月3回月曜日に練習を行っている。</li> <li>広報：11月のオーディションに向けて9月から本格的な広報が始まり、袋井市、袋井市教育委員会からの後援、9月末の市長会見、袋井市全小学校へのチラシ配布、当施設で活動している団体への広報、公式ウェブサイト、Facebook、Instagramでの広報を順次行い、Instagramでは800近い「いいね」の反応があった。</li> <li>アンケート実施：地域の文化振興に対するニーズや課題などを調査するため、小学校、保護者、児童、当館利用者に向けて、文化振興調査のアンケートを準備し、10月末から各所へ調査を開始する予定。</li> </ul> <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>これまで、袋井市で別々に活動していた文化団体の連携が少しずつであるが進み、本番という目標に向かって意思統一ができた。</li> <li>合唱では、毎週の練習で子どもたちの声量や表現力が増し、レベルアップが図れている。本番の音楽劇で歌う曲以外にも多くの曲を練習し、当館のクリスマスコンサートや3月のJazz &amp; ゴスペルコンサートで披露する予定。</li> <li>演技：オーディション開催案内を当館で毎年夏に主催している「こども映画制作ワークショップ」参加者、ボランティアや演劇系、ミュージカル系の活動団体へ案内し、参加への反応があった。</li> <li>静岡県文化政策課やアーツカウンスル静岡、袋井市長、袋井市教育委員会へ面会し活動に対する応援をお願いした。</li> </ul> <p>■知見の活用方法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>当館の主催事業以外で活動している地域の文化団体や個人と繋がりができたことで、県内や地域の文化情報が集まり、関係が広がり、今後の活動の活性が期待できる。</li> <li>1ジャンルではなく多ジャンルで取り組んだことで、お互いが刺激を受け、活動内容をより充実させることができる。例えば、合唱は以前から講師より子どもたちの表現力が足りないと言われていたが、今回演技のワークショップを行うことでそこへ時々参加し、表現力を学ぶことができるようになる。コロナが収束すれば、さらにダンスやゴスペル、世代も大人から子どもまで交流が見込まれコミュニティ形成や、また、プロからの指導で文化芸術力の向上が期待できる。</li> </ul> |                              |
| 事業計画書との差異                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |                              |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>コロナウィルス拡大のため、大勢で集まる交流会は実施できず、練習のみ開催している。</li> <li>コロナウィルス拡大のため、10月に開催予定だった市民音楽劇出演者(演技)のオーディションは11月後半に延期し、合格者が参加する演技ワークショップも12月からの始動へ延期となった。</li> <li>コロナ対策とホール改修工事のため、市民音楽劇本番も令和4年度秋→令和5年度春へ延期した。</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |                              |
| その他報告事項                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |                              |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>市民音楽劇で上演する演目のオンライン絵本の制作</li> </ul> <p>この委託金の予算外であるが、4月～8月にコロナ禍でも音楽劇の練習や物語のイメージがつくように、静岡県のイラストレーターやアーティストの協力で市民音楽劇「月見の里物語」の演目内容を予め絵本「月のうさぎ」として制作し、オンライン絵本（絵本のイラストに歌や伴奏をつけたもの）も併せて作ることで、合唱団が緊急事態宣言で練習が中止になった際に、子どもたちが自宅での自主練習に活用したり、活動の周知に利用した。絵本は、広報的目的でも使用し、順次、この活動へ参加する団体や、当館を利用している団体へ配布したり、図書館、小学校の図書などへ配布している。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |                              |
| ●進捗に関わる課題と思われること、懸念事項                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |                              |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>コロナウィルス拡大のため、大勢で集まる交流会は実施できず、練習のみ開催しているため、全体で集まることがなかなかできない。</li> <li>初めての取り組みの為、各所への説明に時間がかかったり、言葉で説明してもなかなか伝わらないので、プロジェクト自体のチラシを作り、絵で紹介している。</li> <li>広報が始まると自分も出演したいという個人や団体からの問い合わせがあり、全ての個人、団体の出演を叶えることができないので、調整に苦心している。</li> <li>当初の予定より本番まで期間が伸びたので、その分の練習に余分に費用がかかる。</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |                              |

※必要な場合は、記入欄を適宜調整すること。  
※取り組み概要について、写真等を入れても構わない。

### ◆こうさぎ合唱団練習の様子



◆オンライン絵本 サイト  
『月のうさぎ～月見の里物語』- YouTube

# 「地域文化倶楽部(仮称)創設支援事業」 活動状況報告書

## 7月報告版

|      |              |
|------|--------------|
| ●団体名 | 有限会社総合劇集団俳優館 |
| ●地域  | 愛知県          |

具体的な実施内容（採択からこれまでの取組内容と、それについての課題や成果等が明確となるよう簡潔に記載すること）

### ●これまでの取組概要

#### 持続可能性

構築された体制の確認、事業を通じて得られた知見の活用方法

本企画を、もし次年度も継続する場合は、年度や期で区切って実施することは可能であると考えられます。  
 ただ最終的に作品を作り上げる企画であるため、子どもたちには毎回参加してもらうことが望ましく、参加する子どもが休みがちになったりするとその子どもだけではなく全体に影響が及ぼされるため、事業の継続は難しくなる可能性があります。そのため、本企画の最終目的のひとつである「子どもたちが自由な発想を持ち、のびのびと自由に表現ができるようになること。」を目指すのであれば、作品作りではなく、一日完結型のプログラムを継続する方法も良いのではないかと感じました。  
 しかし「作品を作り上げる」ことが、子どもたちの継続意欲を駆り立てていることもあり、「作品を作り上げるプログラム」と「一日完結型のプログラム」のどちらが良いのかということは、一概に言えないように考えます。

#### 事業計画書との差異

新型コロナウイルス感染状況を考慮して、実際に子どもたちとの練習を開始する時期を当初の予定より遅らせました(当初の予定では8月～2月に作品制作のための練習を行うこととしていましたが、10月～2月に変更)。そのため練習時間数も短くなりました。  
 また作品発表の場所を未定としていましたが、名古屋市内にある損保ジャパン日本興亜人形劇場ひまわりホールにて実施することが決定しました。

#### その他報告事項

名古屋市内を中心に、参加者を募りました。特に地域の小学校や子ども会にも協力を得ることが出来ました。  
 ただ、募集時期がちょうど緊急事態宣言中であったこともあり、なかなか対面での募集アピールができませんでした。それでも、名古屋市内を中心に8人の子どもたちが本企画に参加してくれることになりました。

### ●進捗に関わる課題と思われること、懸念事項

一番大きな課題は、新型コロナウイルス感染症によって子どもやその保護者の方が参加を懸念されたり、作品発表の場にお越しくださるお客様が来場を懸念されたりすることかと思えます。様々な地域や学校の子どもたちが集まっているので、コロナ対策を徹底し、それをまずは保護者の方や地域の方にアピールしていくことが大切であろうと感じています。  
 また、普段お芝居や歌、ダンスをやっていない子どもが、恥ずかしいという気持ちよりも楽しい・おもしろいという気持ちが勝った状態で表現をすることに、少しハードルの高さを感じています。当初に比べれば、どんどん表現や心体の表情が柔らかくなってきているように感じるので、このままどこまで引き上げていけるかが課題であると考えています。

※必要な場合は、記入欄を適宜調整すること。

※取り組み概要について、写真等を入れても構わない。



# 「地域文化倶楽部(仮称)創設支援事業」 活動状況報告書

## 10月報告

|      |           |
|------|-----------|
| ●団体名 | NPOむすめかぶき |
| ●地域  | 名古屋市中区    |

具体的な実施内容（採択からこれまでの取組内容と、それについての課題や成果等が明確となるよう簡潔に記載すること）

### ●これまでの取組概要

#### 持続可能性

構築された体制の確認、事業を通じて得られた知見の活用方法

本講座は、小学生を対象として日本の伝統文化を学ぶ講座として開講した。  
日本の伝統文化という大きな括りの中で、今回は日本舞踊と日本絵画の両面を学ぶ、今までとはまた違った形での企画となった。  
募集定員は10名であったが、募集開始からほどなくして定員に達した。学年は2～6年生。  
稽古は、新型コロナウイルス感染予防と、ひとりひとりにきめ細やかな指導を行うため午前・午後の2グループに分けて行っている。

毎回の出席率は90%以上。日本舞踊の際には浴衣着用をお願いしているが、各ご家庭で協力いただいている。  
また、日本画の稽古では水彩画ではなく日本画材を用いて、形式に囚われることなく自由に絵画を楽しんでいる。

日本の伝統文化を学ぶ際には、授業料のほか着衣や小物など、他のお稽古事に比べて金銭的な負担が大きくなる場合が多い。  
しかし今回は補助事業ということで、参加者への負担も軽減され、参加者皆全員が穏やかに楽しまれている傾向にあると推測する。  
今後、同様に講座を続ける場合には、より多くの子供たちにより深い学びの場の提供者として何等かの補助をお願いしたい。

#### 事業計画書との差異

当初の予定から大きな変更は無い。  
新型コロナウイルス感染防止の観点から、保護者には稽古場内への入場を控えていただいているが、その稽古の様子はHPの会員専用ページにて閲覧する事ができるようになっている。  
計画との差異があるとすれば、オンラインでの参加者がいない事であろう。  
ただ、日本舞踊という身体を動かすことと、日本画という描くという行為が、対面に向いているためであると考えられる。

なお、計画では総合発表会を1回行うとしていたが、子供たちが大変熱心に参加している事もあり、日本画は別でプロジェクションマッピングなどを取り入れた発表会の追加を検討している。

#### その他報告事項

追加予定の日本画の発表会、プロジェクションマッピングの予算については、計上予算の「SNS・HP告知等制作費」から支払う事とする。

### ●進捗に関わる課題と思われること、懸念事項

日本舞踊の稽古は予定通り進んでいるが、現在1曲を全責で踊る形式であるため、11月に予定の総合発表会に向けて発表形式を考える必要がある。

10月からは、ほぼ毎週の稽古となるが、発表会前に場合によっては個人指導も予想される。  
その場合は、予算内にて行うこととする。

日本画については制作課題が決まったため、その課題の歴史的背景を学びつつ、日本画についての造詣を深めていきたいと考える。

※必要な場合は、記入欄を適宜調整すること。

※取り組み概要について、写真等を入れても構わない。

# 「地域文化倶楽部(仮称)創設支援事業」 活動状況報告書

## 7月報告版

|      |               |
|------|---------------|
| ●団体名 | C.C.C.THEATER |
| ●地域  | 神奈川県          |

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |                              |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------|
| 具体的な実施内容（採択からこれまでの取組内容と、それについての課題や成果等が明確となるよう簡潔に記載すること）                                                                                                                                                                                                                                                                                           |                              |
| ●これまでの取組概要                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |                              |
| 持続可能性                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             | 構築された体制の確認、事業を通じて得られた知見の活用方法 |
| <p>【稽古】</p> <p>予定通り実施できているため、毎週末の参加は今後も問題なく実施できると考えています。年間を通して、子ども達のモチベーションを維持するために、9月に発表会を開催しました。本公演までの課題を子ども達自身が感じ取ることで、更なる成長の機会として、これからの稽古を自発的に取り組んでくれると考えています。</p> <p>【保護者への理解】</p> <p>LINEオフィシャルアカウントを作成し、情報共有やチャットでの個別やり取りも頻繁に行なっています。また、オンラインでの保護者会を開催し、演劇の力や公演作品についての想いを伝えたことで、共感をもらえたと思っています。今後もこのような機会を開催したいと考えています。</p>                |                              |
| 事業計画書との差異                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |                              |
| <p>【無料体験会について】</p> <p>4月に予定通り開催をしましたが、人数が集まらなかったため、5月以降も随時無料体験を受け付けることにしました。その結果、数名に体験してもらい、入会に繋げることができました。</p>                                                                                                                                                                                                                                   |                              |
| その他報告事項                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |                              |
| 特になし。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |                              |
| 活動写真                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |                              |
|     |                              |
| ●進捗に関わる課題と思われること、懸念事項                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |                              |
| <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>新型コロナウイルスの感染状況に応じ、稽古の開催方法を随時検討をしていかななくてはならない。</li> <li>オンラインでも開催できる稽古内容を検討している。</li> </ul> <p>【懸念事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>公演について</li> </ul> <p>観客収容人数がどのくらい制限がかかるのかによって、支出調整を行なわなければならない。国や自治体の動向を注視していきたい。</p>                                                          |                              |

※必要な場合は、記入欄を適宜調整すること。  
 ※取り組み概要について、写真等を入れても構わない。

# 「地域文化倶楽部(仮称)創設支援事業」 活動状況報告書

## 7月報告版

|      |            |
|------|------------|
| ●団体名 | うえだイロイロ倶楽部 |
| ●地域  | 長野県上田市     |

具体的な実施内容（採択からこれまでの取組内容と、それについての課題や成果等が明確となるよう簡潔に記載すること）

### ●これまでの取組概要

#### 持続可能性

構築された体制の確認、事業を通じて得られた知見の活用方法

#### 【体制】

事務局が2名、今まで参加したは20～40代のファシリテーターが約10名ほど、11月現在で登録されたボランティアが約20名で10代～50代までと幅広い年齢が関わる。月に3～4回活動日。2班に分かれた子ども、若者たちが演劇・音楽・図画工作・映画など様々なジャンルの専門分野で活躍するファシリテーターと取り組んでいる。

学校の中で行われる部活動とは違い、地域の中で専門的な知識を持ち、生業としている大人がファシリテーターとして関わっているため、参加者は「趣味」や「楽しみ」として文化を享受するだけではなく、大人が真剣に芸術に向き合う姿を身近に感じることが出来ている。

#### ▼これまでの主なファシリテーター

- ・演劇・冒険：〇〇〇〇（演劇的な表現遊びを通して豊かな社会作りを目指す団体「一般社団法人あそび心Baseアフタフバーパン信州」スタッフ／42歳）
- ・演劇：〇〇〇〇（“たびするはたけ”をテーマに活動するアートユニット「fatrripm」の主宰・舞台作家・俳優。「犀の角」スタッフ／26歳）
- ・音楽：〇〇〇〇（生活困窮者の相談支援を行う「NPO法人場づくりネット」スタッフであり、弾き語り音楽活動も行う／38歳）
- ・ダンス：〇〇〇〇（ダンサー・振付家。上田地域でダンストレーニングクラスのインストラクターとしても活動／39歳）
- ・図画美術：〇〇〇〇（アートを取り入れた障害者福祉施設「NPO法人リベルテ」スタッフ／31歳）
- ・映画：〇〇〇〇（コミュニティシネマとして定期上映を行う「上田映劇」と「トラウム・ライゼ」支配人／29歳）
- ・ボードゲーム：〇〇〇〇（コミュニケーションが楽しめるボードゲームの出前を行いやゲームの紹介をする「堺や」店主／40歳）
- ・将棋：〇〇〇〇（劇団青年団ドラマトルク・制作スタッフ。長野県文化政策課文化振興コーディネーター。高校時代は将棋に取り組む／43歳）
- ・冒険：〇〇〇〇（犀の角を運営する「一般社団法人シアター&アーツうえだ」代表／49歳）など

#### ▼10月までの活動の仕方

計画段階では子供達からの“やりたいこと”を集め、それを分けてオリジナルの倶楽部を3つ立ち上げる予定で、興味のあるジャンルに近い参加者同士が共に活動することになっていた。子供達の“やりたいこと”を具体化し班分けを行う為、5月～6月にかけて「おためしワークショップ」を実施。運営側が提供できる様々な文化芸術活動を参加者に体験してもらい、最終的にどの活動を続けていきたいかというアンケートを取った。その結果を基に、10月までの活動は2つの部活に分けて実施。1つは自分の身体や声を使って表現する主に演劇・ダンス・音楽を中心とした「イチーム」、もう1つはダンボールや色紙などの素材を使って表現をする図画・美術・工作を中心とした「ロチーム」だ。また、おためしワークショップで興味関心がある子が多かったボードゲーム・将棋と冒険は、希望者のみ参加できる日として月に1回「ハチーム」の活動日を設けた。

#### ＜活動スケジュール＞

- 5月19日 オリエンテーション1回目
- 5月24日 オリエンテーション2回目 \*参加人数が増加した為、2回に分けて実施。
- 5月26日 おためしWS:演劇・音楽
- 6月2日 おためしWS:ボードゲーム・将棋・冒険
- 6月9日 おためしWS:図画美術・文芸

6月21日 おためしWS:映画・工作  
6月30日 班分け発表(メール連絡)  
7月7日～通常活動開始  
イ・ロチーム:7日、14日、21日／ハチーム:27日  
8月4日～10月12日 新型コロナウイルス感染症の感染状況悪化につき、活動休止  
10月13日 通常活動再開  
イ・ロチーム:13日、20日／ハチーム:26日  
11月3日 活動の仕方を変更・イ・ロのグループ分けせず活動  
→11月以降の活動については、「●進捗に関わる課題と思われること、懸念事項」を参照。

#### ▼参加しているボランティア

・大学生: 上田市にある長野大学・信州大学の学生に加え、長野市の清泉女学院大学や上田市から東京都内の大学に通っている学生も活動に参加している。長野大学の社会福祉学部所属する学生は、学生生活で障害福祉のケアについて学んでおり、うえだイロイロ倶楽部での活動が実践的な学びの場となっている。  
・高校生: 上田市内の学校に通う高校生。参加者として参加するのではなく運営のサポートで関わる。  
・社会人: 上田市や東御市などの周辺地域で仕事をしている社会人が仕事帰りや休日を利用して活動に参加している。

#### ▼会場についてと取り組みの変化

会場として使用している「犀の角」はゲストハウス兼小劇場の文化施設である。障がいや国籍を問わずさまざまな個性や特性を持った子ども・若者が集まっていることにより、劇場運営において子どもを対象にした企画がより活発化され多様性を考慮したプログラムを企画することが増えてきた。その企画によって、参加者以外の地域の子ども・若者が文化芸術に触れる場ともなっている。  
一般社団法人シアター&アーツうえだが主催する子供若者向けイベント・「石川直樹さんと楽しむ空想世界旅行」11月23日開催予定

#### ▼うえだイロイロ倶楽部オープンデー

活動の様子を広く知っていただくために、のきしたの「おふるまい」とあわせて開催した「オープンデー」。おふるまいの来場者や関係する大人たちをはじめ、通常活動だけでは交わることのなかった地域の方々子どもたちとの繋がりを作ることが出来た。それにより、地元の商店街の中で子どもが自由に遊ぶことのできる環境を整えてゆくきっかけとなり、近隣の高齢者施設などと連携して、異年齢交流の場を作ることが出来る可能性もある。

#### ▼参加している子供達の変化

募集をかけた時点では6～18歳を広く募集したが、結果的に集まったのは10歳以下の低学年が多かった。  
当初の予定では、参加者から自発的に出てくる興味・関心を尊重し、それを深める活動を目指していたが、低学年ではそれが難しい。自分自身の興味・関心が何なのか分からない、もしくはまだ情熱を持てるほどの何かに出会っていないことなど、発達途上であるための経験・体験不足と「好きなこと」に対する自覚が未熟だからである。そのため、ファシリテーターからその日の活動内容を提示する機会を予定より増やすなどした。次第に低学年の子どもたちからも自発的にやりたいことを始める機会が増えてきた。  
例えば、工作をするチームでは、ある子が作った魚釣りゲームに他の子が創作で参加し、結果的に地域のお祭りのゲームコーナーとして出店するに至るなど、大人たちが先導していない状態においても、自然と活動内容が発展し子どもたちの中から生まれたものが彼らの中で膨らみ、深められ、予想外の展開を見せた。





## 事業計画書との差異

### 【参加人数の増減】

前期(5月)募集で応募総数40名となり予想以上に応募があった。当初の定員は24名の予定であり、抽選にすることも提案されたが、できる限り多くの子ども・若者に我々の活動に参加して欲しい気持ちがあり、応募者全員をメンバーとして迎えることになった。活動を進めていく中、高校生の参加者が運営として関わるためにボランティア参加に移行したり、保護者の意思で応募し子供自身が倶楽部の活動に興味が無いため参加をやめた子なども居た為、現在の参加人数は29人と絞られた。

### 【後期募集の中止】

構想段階では前期の募集に加え、後期の募集をする予定だったが、結果的に後期は募集をかけないことになった。理由は、活動場所の広さを考慮すると現在の参加者以上に人数が増えると「密」な状態になってしまうため、追加で受け入れることが出来ない状態であるからである。そもそも予定していた定員より多い人数に対応することになり、ファシリテーターやボランティアの人員面や、予算の上限としても、後期募集をかけることでこれ以上に参加者を増やすことが現実的ではなくなってしまった。

後期の募集をかけないことで、新しい出会いの可能性がなくなってしまうことは残念なことではあるものの、参加者が変わらないため、活動内容を続けて深めていくことも出来、個々の特性や興味・関心に更に親密に寄り添えるようになったと思われる。現在の運営体制では、29人を受け入れるのは少し厳しい面もあるが、時間をかけてそれぞれの参加者と向き合えることを勘案すれば後期の募集をかけず、固定のメンバーで活動できることは良い影響を与えていると考えられる。共に活動している子ども・若者がどんな性格なのか、今の興味はどんなことなのか、そこから想像を膨らませて、この先興味を持ってそうな分野であったり面白いと思ってもらえるような時間をどう提供し、共有していくかこれからも課題である。

### 【新型コロナウイルスの感染状況による影響】

#### ▼通常活動の中止(8月1日～10月12日)

7月下旬から長野県内の新型コロナウイルス感染症の感染状況が悪化し、新型コロナウイルス感染症長野県対策本部より長野県全県に対して8月6日に「医療警報」、8月20日に「医療非常事態宣言」が発令された。これを受けて、事務局とファシリテーターで話し合いを行い、通常活動をしばらく休止させることとなった。結果的に8月から2ヶ月間休止。その間に子供達との遠隔的に交流を図る為、ファシリテーターやボランティアに協力を仰いで子供達に手紙を送るなどしてコミュニケーションを大事にした。子供達からの返信もあり新たな交流も生まれたが、10月13日に活動を再開する旨をメールで通知した際、保護者から「待っていた」「飛び跳ねて喜んでいる」など再開を待ち望んでいた返信がいくつも届き、子供達にとってこの倶楽部が必要だったということが分かり喜びを感じた。

#### ▼スペシャルデイの延期

特別講師を招聘して行う「スペシャルデイ」がコロナウイルス蔓延防止の観点から月に一回開催できていない。10月以降で3度開催することになっており、子どもたちに参加したい活動を選択してもらった形としている。本来であれば、第一線で活躍するアーティストなどを呼び、参加者と密接に関わり合いながら交流を図れるはずであったところ、出来るだけ接触がない状態での活動となり、緊急事態宣言の影響などから回数も減らしての開催となっている。

## その他報告事項

### 【特性を持つ子ども】

参加者の中で、予想していた以上に「特性のある子ども・若者」が多い。全員で話を聞かなければいけない場面で一人歩きしたり、周りと同じことができない、自己主張が強いなど、個別の対応が必要な子である。募集をかけた時点では、普通の部活動ではそういった特性のある子は思う存分楽しむことが難しいのではないかという考えから、積極的に受け入れていこうという議論があった。しかし実際に集まった参加者の中で一緒に行動できない子どもが多く見られ、予定通りの活動ができないことが多々あった。初めは対応に戸惑い、なかなかお互いに気持ちの良い時間を作るのが難しかったが、それぞれに寄り添い理解を深めていくことにより、次第に活動時間を楽しめるようになってきたようである。

#### ▼大人たちが共有している子供達への向き合い方

- ・活動中に突然始まる一人遊びも大事にする。
- ・ファシリテーターが全体の進行をしやすいように、ボランティア、事務局スタッフは子供達の興味や状況によって臨機応変に役割を変化させながら対応する。
- ・会場から飛び出して別の活動をする子は必ずボランティアを専属で付けて、一緒に遊びながら状況を把握する。
- ・全体への声掛けを聞いていなくても、個別に説明して、置いてけぼりにならないようにする。

活動が始まる前の段階では、障がいのある子どもに対する対応や付き合い方を専門の知識のある方からレクチャーを受けた方が良いのではないかと計画もされていた。しかし、活動を通して分かってきたのは、ケアの現場を専門にしないアーティストや地域の大人たちは障がい等の特性を持った子どもとケアを施す対象ではない一個人として出会っていることで、子供達とのコミュニケーションを軽やかにしていることだった。結果的にはどうケアをするかではなく、参加者と関わる大人とがきちんと一対一で出会い、知り合うことが重要だということが分かってきた。関わる大人たちが時間をかけて一人一人向き合うことで、どんな特性を持っていっても部活動を楽しみ、興味のあることを深められる環境づくりを心がけて活動をしている。

### 【ボランティアの主体性と学び】

ボランティアは主に大学生や児童教育に関心のある若者を中心に集まっており、自主性を持って関わっている。教育や福祉の現場への進路を希望している方も多く、将来を見据え、彼らにとっても良い経験の場となっている。学校教育だけでは掬いきれない「全体から外れてしまう」子どもと時間をかけて向き合い、特性に気づき、更には個性を伸ばすきっかけを発見するなど、ボランティアの力を実践する機会にもなっている。

## ●進捗に関わる課題と思われること、懸念事項

### 【感染症対策について】

コロナ禍において、感染レベルが上がると活動を止めざるを得ない。事業の趣旨として、体験を共有しお互いに刺激し合うことを大事にしているため、集まって活動ができないことが致命的な懸念事項となっている。同じ場所で活動ができない状況下でも出来ることを模索し、継続可能な形を作る必要がある。感染レベルが上がる時こそ、子ども・若者が文化芸術に触れる機会が奪われる時期であり、また、外出しにくかったり友人と過ごす時間がなくなるなど、ストレスを抱え易いタイミングである。この活動が小さな支えのひとつとなるべきであり、そうなり得る可能性を持っているからこそ「密」にならずに活動できる形態を考えてゆく必要がある。

### 【活動の仕方とコミュニティ形成】

10月までの活動ではイ・ロチームで大きく子供達を分けたことで、それぞれの興味を更に深めることができ、参加者同士の仲が親密になることにより、学校以外での仲間・コミュニティを強く実感することができた。しかしながら、会場を全く違う2つの建物(犀の角とグランピア)で分たこともあり、イ・ロチーム間での交流や共同創作などにつなげるのが難しくなってしまった。また、6月のおためしワークショップの後に取ったアンケート結果を基にしてグループ分けを行ったことで、「ジャンル」という枠に子供達をはめ込んだことにもなった。音楽だけ、美術だけと特定の活動に興味関心があり深めたい子もいれば、色んなジャンルを自ら選んで総合的に活動したい子もいる。例えば、ロチームで洋服を作った子がその服を着てダンスをしたいと言った時など。加えてファシリテーターである地域の大人たちも、限定的な分野だけに知識があるだけでなく、コミュニティによって様々な一面を持つ大人たちである。例えば、音楽を担当するファシリテーターで工作が得意な人もいれば、図画美術を担当するファシリテーターが身体表現をしたりもする。人間は他者との関係性によって役割が変化する。どうにかジャンルにこだわらず活動を実現できないか思案していた。その課題を踏まえて、11月現在は2つのグループを犀の角の3Fと2Fにして同じ建物内での活動にまとめ、各自の興味の赴くままにジャンルを超えて活動に参加できるように体制を変えた。ジャンルに拘らず子供達はその日の気分や興味関心によって活動を選択したり、行き来できるようになったことでより自由な環境を実現できた。しかし、今度は興味の向く先が違う参加者同士が同じ空間にいることにより相互に影響しあえる場を作る必要があると感じている。学年や通学区も違う子供たちによるコミュニティ。子どもたち同士のコミュニケーションを取りやすくする仕掛けをファシリテーター、事務局で検討し試行錯誤している最中だ。

11月以降活動の仕方を変更したことで、参加者全員が同じ空間に集まることが不可能ではないということが分かった。初めからジャンルごとのチームに分けて活動するのではなく、その日の活動内容を提示した上で子ども・若者に自分の意思で参加してもらうという体制が進められつつある。空間の使い方、時間の割り方、その日の内容の伝え方やどこまで何をどう説明すると上手いくのか。または、どういう伝え方をすると上手いかわからなくなってしまうのか。毎回、反省と改善の繰り返しであるものの、参加者である子ども・若者たちはこの活動にとってもやりがいを感じ、普段の生活の中ではなかなか得ることのできない経験ができるこの活動を毎週、楽しみにしているようだ。

※取り組み概要について、写真等を入れても構わない。

# 「地域文化倶楽部(仮称)創設支援事業」 活動状況報告書

## 12月報告版

|      |                          |
|------|--------------------------|
| ●団体名 | 特定非営利活動法人 日本地域部活動文化部推進本部 |
| ●地域  | 静岡県(おもに掛川市)              |

具体的な実施内容 (採択からこれまでの取組内容と、それについての課題や成果等が明確となるよう簡潔に記載すること)

### ●これまでの取組概要

#### 持続可能性

構築された体制の確認、事業を通じて得られた知見の活用方法

【課題1】個別最適かつ協働的な学びを得られる活動実現のための仕組みの構築

⇒「子どもたちによる部活動の自治」を本格始動

→ 8月～10月テスト期間、11月より自治を本格開始

[具体的な仕組み]

⇒ 3人共同リーダー制の目的別プロジェクトチームを期間限定で編成(立候補および推薦)、部長・副部長制はとらず、トップを置かない円形組織を構築。

[成果]

⇒ 2021年12月 … 12月下旬開催の部内イベントに向け、それぞれ楽しさと居心地のよさをベースに、プロジェクトチームの企画や運営を軸にし、全体として部活動の自治が本格的に動き出している。(昨年の同時期に比べ、各観点別でも飛躍的に発展している。これらの自主的・自発的な部活動の自治を通して、個別最適かつ協働的な学びを得る活動を実践中。

【課題2】各種担当スタッフ体制、オンライン・オフラインを融合した仕組みの構築

⇒ 12月よりPocca本部(掛川市家代)とPalette活動拠点(同市亀の甲)をオンラインZOOMでつなぐ体制を開始。

[具体的な仕組み]

◇ 本部からの連絡やプロデューサーからの企画運営アドバイス等はZOOMで伝達。(質問等は別室設置のZOOMでやりとり)

◇ Palette拠点の見守りスタッフ(主催者事務1名、人材派遣保安係1名)のみ、表現や技術等の専門アドバイザーは本部経由のオンラインでワークショップを実施(5回実施)

[成果]

⇒ 部員もコロナ禍により画面越しのオンライン視聴に違和感がないこともあり、逆に集中して視聴する姿勢も見られたほか、全体の意識としても部活動の自治を一層ジブンゴトとして捉えてきている。

【課題3】地域と共に持続可能な活動を展開可能な資金基盤の獲得

⇒ 掛川市内の活動においては、一部の企業による継続協賛を得ている。

→ 全国展開においては、来年度、新中学1年生のみが入部する新しい拠点を創設し、Pocca本部との連携で部活動の自治が1年生のみで可能なことを実証する必要がある、その成果をもとに全国化に向けた強力な提案を行い、大型の資金獲得に動くことが順当な流れであると考えている。

→ 地域(特に掛川市)との連携という観点では、本年10～11月に開催の地域芸術祭「かけがわ茶エンナーレ2020+1」の中でオープニングセレモニーの企画制作をはじめ、3つの事業に企画制作から表現・制作・運営等に参画。大人の指導者が直接入らない環境下で、部員たちが自治的な企画制作運営の観点から驚異的な成果を生んだ。

#### 事業計画書との差異

応募時に提出の事業計画書「Ⅱ事業の具体的計画」1.事業内容

課題1、課題2、課題3、それぞれに対応する各事業内容は、以下の点をのぞき、おおむね計画通り実施展開中。

[変更が生じた内容]

◇ 高校生の地域部活動

4月に計画通り、創部(5校から5名入部)、11月に発展的解散。

→ 学校の部活動との兼部、地域の芸術団体との両立など活動継続が困難な状況に加え、部員個々のニーズがPoccaが推進する地域部活動の在り方との差異が生じたことから、個々のニーズに沿ったグループ活動を部活動の外で定期実施しながら、そのほかの活動との両立を図っていくことで合意。部活動の在り方の本義からも、結社(創部)の自由、解散(廃部)の自由は保障されなければならない、強制はない観点からも、部員個々および主催団体(Pocca)双方にとって、より良い形に帰結した。

[今後、変更が生じる内容]

◇ スポーツ系、文化系を問わず地域部活の情報提供を行うポータルWEBサイトの開設および運営 を今年度は見合わせ、

⇒ Poccaが提案する地域部活動の在り方を全国発信する映像コンテンツの制作と配信 にリソースを振り向ける。

### その他報告事項

◇Pocca直轄部活動・掛川未来創造部Palette

⇒ 市内7校から中3:4名、中2:24名、中3:19名、計47名が所属。(掛川市内の中学校は全9校)

→ 5月～12月の間、計60回 実施(緊急事態宣言下のテレブカツ＝リモート部活を含む)

内訳:5月＝7回、6月＝6回、7月＝9回、8月＝7回(中旬からテレブカツ)、9月＝9回(テレブカツ)、10月＝8回、11月＝7回、12月＝7回(予定)

◇全国に向けた発信イベント(実施済)

→5月22日 地域部活プレゼン&パフォーマンス2021を開催

◇全国に向けた事業検証会議&通常部活動の見学会

→2022年2月24日(木) 地域部活カンファレンス&インスペクション2022を開催予定

### ●進捗に関わる課題と思われること、懸念事項

Poccaが推進・支援する部活動の全国展開には、大きな資金の調達が求められる。

各活動拠点への主催側スタッフの派遣⇄Pocca本部とのオンライン接続の体制を、次年度、新たに創部する拠点において、新中学1年生のみで部活動の自治ならびに個別最適かつ協働的な学びが展開できることを実証する必要がある。

その確証が来年4月創部～夏ころまでに実証する結果をもって、夏～秋以降、大型資金の調達に本部として動くことを計画している。

※必要な場合は、記入欄を適宜調整すること。

※取り組み概要について、写真等を入れても構わない。



# 「地域文化倶楽部(仮称)創設支援事業」 活動状況報告書

## 7月報告版

|      |                              |
|------|------------------------------|
| ●団体名 | 取手文化倶楽部 AFTER SCHOOL MUSICAL |
| ●地域  | 茨城県取手市                       |
|      |                              |

具体的な実施内容（採択からこれまでの取組内容と、それについての課題や成果等が明確となるよう簡潔に記載すること）

### ●これまでの取組概要

#### 持続可能性

構築された体制の確認、事業を通じて得られた知見の活用方法

サマースクールを開催した。参加人数は、延べ13人だったので、十分にソーシャルディスタンスが取れ感染対策は問題がなかった。また、ダンス・歌唱・芝居の稽古に集中して取り組むことが出来た。講師からは、当初の授業計画よりも進んで内容も充実して出来たと報告を受けた。



#### 事業計画書との差異

新型コロナウイルス感染拡大による緊急事態宣言発令のため、規模を縮小した。会館が使用できなくなり平常の部活動が出来なかった。

#### その他報告事項

夏休みに「サマースクール」を開催したが、3回目は、閉館により開催できなかった。声を出すことで飛沫が飛ぶなど懸念事項が多く参加者はもちろん企画する側も慎重にならざるを得なかった。また、講師に打診して快諾して頂いたにもかかわらずお断りせざるを得なかった。

### ●進捗に関わる課題と思われること、懸念事項

新型コロナウイルス感染拡大には波があり、終息が見えないため、計画通りに進まない。代案も模索しきれないもどかしさがある。会場の換気も限度があり、暑い時期はエアコンと外からの熱風、これからの寒い季節は暖房と外からの冷気との戦いになりそうである。

※必要な場合は、記入欄を適宜調整すること。

※取り組み概要について、写真等を入れても構わない。

# 「地域文化倶楽部(仮称)創設支援事業」 活動状況報告書

## 7月報告版

|      |                        |
|------|------------------------|
| ●団体名 | Kashiwa Special Sounds |
| ●地域  | 千葉県柏市                  |

具体的な実施内容（採択からこれまでの取組内容と、それについての課題や成果等が明確となるよう簡潔に記載すること）

### ●これまでの取組概要

#### 持続可能性

構築された体制の確認、事業を通じて得られた知見の活用方法

#### ○入団者について

・現在、中学1年から高校2年までの5名が入団している

#### ○クラウドファンディングを実施

・まだ活動していない時期だったが、学校部活動から地域への移行を全面にアピールしたところ、今後の期待や応援もあり支援があつまった。  
→支援者は23人で支援総額は170,000円(手数料などが差し引かれ振り込まれたのは138,210円)。東葛地区だけでなく大阪や栃木、都内からの支援もあった。

#### ○団員募集

・ポスティングや各学校、近隣教育委員会にチラシを配布したが効果はなかった。

→SNSの投稿を見て入団を決めた方が多かった

そのためには団の方針やカラーやビジュアルを明確にすることが重要と感じた。当団体は立ち上げ早々にデザイナーに依頼した

#### ○楽団の当面のゴールを設定した

・年度末に定期コンサートができるようホールを予約した

#### ○愛称を決めた

・親しみやすさや会話のしやすさにつながる

#### ○こちらから取材を申し込んだ

・柏市民新聞:説明会と練習の様子を2度取材いただいた

・東葛まいにち:インタビューと設立の経緯について取り上げていただいた

・J:COM:夕方のニュースで5分ほど特集していただいた

→下記「その他報告事項」に画像を添付しました。

#### ○SNSの活用

・説明会や体験会の様子を動画で配信

→SNSでも投稿し視聴してもらった

### 事業計画書との差異

#### ○開始時期

・9月より活動開始となった

→計画では4月からだったが新型コロナウイルス感染拡大などの情勢もあったため。

#### ○団員数

・10月7日現在で5名

→計画では「4月10名、7月+2名、11月+3名」

#### ○練習日と時間

・日曜 13:00-17:00 となった

→計画書では「毎週土曜(予定) 9:30-15:30(昼休憩60分、実働5時間)」だった

#### ○練習場所

・公民館や近隣センターにて練習

→計画では「東葛地区の公民館、演奏可能な空き家、手賀沼フィッシングセンターなど」としていた

#### ○演奏など

・まだ演奏披露の域までは達していない

→計画では「定期演奏会やイベント出演など年間4回程度で演奏を披露」としていた。初年度はコロナ禍でもあり定期演奏会以外は難しそう。

#### ○メセナ支援

・クラウドファンディング経由で1社から支援あり。柏市に本社を持つ「まくら株式会社」

→計画では今年度で7社

### その他報告事項

○当団体のWebサイトにも状況をまとめております。お時間のある時にご覧ください。

<https://www.legalis.website/>



### ●進捗に関わる課題と思われること、懸念事項

#### ○団員を増やす

・団員が15名以上いれば収支面・演奏面で安定する

→SNSの投稿を増やしていく

→公開練習の実施

#### ○コンサート費用の捻出

・学校部活動よりも華やかな定期演奏会を考えている。照明などに予算をかける

→団員を増やす

→メセナ支援企業を増やす

※必要な場合は、記入欄を適宜調整すること。

※取り組み概要について、写真等を入れても構わない。

# 「地域文化倶楽部(仮称)創設支援事業」 活動状況報告書

## 7月報告版

|      |                      |
|------|----------------------|
| ●団体名 | 足立区役所 地域のちから推進部地域文化課 |
| ●地域  | 足立区                  |

|                                                                                                                                       |                              |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------|
| 具体的な実施内容（採択からこれまでの取組内容と、それについての課題や成果等が明確となるよう簡潔に記載すること）                                                                               |                              |
| ●これまでの取組概要                                                                                                                            |                              |
| 持続可能性                                                                                                                                 | 構築された体制の確認、事業を通じて得られた知見の活用方法 |
| ギャラクシティで、地域文化倶楽部「あだちっこくらぶ」を創設した。<br>小学校3年生から6年生までの子どもが2クラブで各10名ずつ活動している。<br>コロナ禍により募集人員の制限を行ったが、抽選になるほどの応募があったことから、来年度以降活動人数の調整を行いたい。 |                              |
| 事業計画書との差異                                                                                                                             |                              |
| 計画では、7月上旬の事業開始を予定していたが、スタートが遅れ7月下旬に開設した。<br>「DTM部(デジタルミュージック部)」の講師が、本業の関係で9月に関西に転勤することとなったため、9月下旬から新たな講師を迎えて開催することとなった。               |                              |
| その他報告事項                                                                                                                               |                              |
| ●進捗に関わる課題と思われること、懸念事項                                                                                                                 |                              |
| 回数を重ねるにつれて、欠席者が数人おり、活動への参加意欲の向上が課題となる。<br>成果発表も視野に入れているが、それまでのレベルに到達するかが課題である。                                                        |                              |

※必要な場合は、記入欄を適宜調整すること。  
※取り組み概要について、写真等を入れても構わない。

「地域文化倶楽部(仮称)創設支援事業」 活動状況報告書

7月報告版

|      |                  |
|------|------------------|
| ●団体名 | 一般財団法人民族衣裳文化普及協会 |
| ●地域  | 東京都豊島区           |

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |                                                                                                                                                                                                                                                                         |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 具体的な実施内容（採択からこれまでの取組内容と、それについての課題や成果等が明確となるよう簡潔に記載すること）                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |                                                                                                                                                                                                                                                                         |
| ●これまでの取組概要                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |                                                                                                                                                                                                                                                                         |
| 持続可能性                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      | 構築された体制の確認、事業を通じて得られた知見の活用方法                                                                                                                                                                                                                                            |
| 具体的な実施内容（採択からこれまでの取組内容と、それについての課題や成果等が明確となるよう簡潔に記載すること）<br>○体制<br>豊島区教育委員会後援事業の冠もつき、学校への周知ができ、また地域では高田一丁目の皆さまの多大なる協力体制が整い、きもの文化を通じての地域を知る学ぶ楽しむ体制が整備され、現在進行しております。参加している親子さんの学び志向や地域との交流に対する取組みは、逆に学ばされております。<br>○これまでの活動内容<br>採択より周知(募集活動)および開講に至る期間が十分ありましたので、本事業の良さや内容説明等もでき、良かった。<br>開講スケジュール<br>1回目 10/10 オリエンテーション、着付け①<br>2回目 11/7 着付け②<br>3回目、4回目 12/12 豊島区の歴史や文化、きもので散策<br>5回目 1/16 着付け③<br>6回目 2/13 発表会<br>現在4回目まで終了し、横の繋がりもできつつあります、また語り部による豊島区の歴史や文化を見聞き、触れることで居住している地域の良さを知ることができたように思う。これからは発表会に向けての効果測定(成果発表)に向けての準備となります。<br>○知見および感想<br>想定以上に地域文化に対する興味関心が高いこと、また地域の皆さまの協力度も同様に高く、相互連携が図られ次につながる事業と認識している。 |                                                                                                                                                                                                                                                                         |
| 事業計画書との差異                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |                                                                                                                                                                                                                                                                         |
| ○回数<br>コロナの影響により当初8回コースでの計画をしておりましたが、6回にして内容をより厚めに講座展開を図っております。<br>○定員<br>当初10組20名を想定しておりましたが、コロナでのソーシャルディスタンスの確保等を鑑み、時間帯を午前と午後2回に分けて7組14名ずつ計14組28名の参加といたしました。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |                                                                                                                                                                                                                                                                         |
| その他報告事項                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |                                                                                                                                                                                                                                                                         |
| 特になし                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       | <div></div> |
| ●進捗に関わる課題と思われること、懸念事項                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |                                                                                                                                                                                                                                                                         |
| 新しい新株の出現で感染拡大となれば、事業を中止せざるを得ない状況になるので、注視していくことが必要がある。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |                                                                                                                                                                                                                                                                         |
| <div></div>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |                                                                                                                                                                                                                                                                         |

※必要な場合は、記入欄を適宜調整すること。  
※取り組み概要について、写真等を入れても構わない。



# 「地域文化倶楽部(仮称)創設支援事業」 活動状況報告書

## 7月報告版

|      |                    |
|------|--------------------|
| ●団体名 | 公益社団法人日本芸能実演家団体協議会 |
| ●地域  | 東京                 |

具体的な実施内容（採択からこれまでの取組内容と、それについての課題や成果等が明確となるよう簡潔に記載すること）

### ●これまでの取組概要

|                                                                                                                                                                                                                                                                         |                              |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------|
| 持続可能性                                                                                                                                                                                                                                                                   | 構築された体制の確認、事業を通じて得られた知見の活用方法 |
| <b>■実施体制:</b> 〔主催〕公益社団法人日本芸能実演家団体協議会、〔協力〕公益社団法人日本舞踊協会/一般社団法人長唄協会/公益社団法人落語芸術協会/特定非営利活動法人芸術家のくすり箱）<br>・子供への指導実績豊富な専門実演家団体が連携を取り実施運営<br>・教授層に若手実演家を起用し指導人材を確保<br><b>■単発ないし短期事業への参加経験者にとり更なる長期的な受け皿に</b><br>・応募時の継続意向調査において半数が継続の意向有りと回答<br><b>■持続的運営のためのクラウドファンディングの実施</b> |                              |

### 事業計画書との差異

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・クラブ名称:芸能花伝舎Club→芸能花伝舎クラブ</li> <li>・開講始期:9月→10月</li> <li>・対象年齢:小学校高学年から高校生まで → 小学4年生から中学1年生まで</li> <li>・定員数:20名→確定数23名</li> <li>・開講曜日時間:毎週火曜16:45～17:45</li> <li>・参加費:月謝 → 一括前納(25,000円)</li> <li>・カリキュラム:オリエンテーション1回、稽古14→15回、特別講座2回→1回、鑑賞1回</li> <li>・主な指導者:花柳昌太郎(日本舞踊)、吉住小三郎、和歌山富朗→杵屋巳織(長唄三味線)、春風亭柳若(落語)、小曾根史代→水村(久埜)真由美(特別講座)</li> <li>・東京都助成金交付額:100万円→60万円</li> <li>・稽古会場:花伝舎のみ、新宿未来創造財団運営施設の使用なし</li> </ul> |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

### その他報告事項

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <b>■検討・運営会議3回開催</b><br><b>■開講後の進捗(オリエン、舞踊3回、三味線2回実施済み)</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒は浴衣を自分で着て毎回稽古に臨む</li> <li>・活動の様子は毎回終了直後にSNSで報告、保護者に写真送付</li> </ul> <b>■露出先一覧</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・朝日小学生新聞に募集広告掲載、朝日新聞みらのび連携予定</li> </ul> <b>■コロナ対策事項</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・検温、消毒、マスク着用、着替え前後に会場床の消毒</li> </ul> <b>■安全に参加できる仕組み</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・帰宅ルート調査</li> <li>・毎回終了直後に生徒退出時間を保護者に連絡</li> <li>・保険加入</li> </ul> |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

### ●進捗に関わる課題と思われること、懸念事項

|                                                                                                                              |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <b>■3月の開講から次年度開講までの空白期間</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・稽古の継続を希望する子供たちをどう繋いでおくか</li> </ul> <b>■持続的活動のための資金調達</b> |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

※必要な場合は、記入欄を適宜調整すること。

※取り組み概要について、写真等を入れても構わない。

# 「地域文化倶楽部(仮称)創設支援事業」 活動状況報告書

## 10月報告版

|      |               |
|------|---------------|
| ●団体名 | 堺シティオペラ一般社団法人 |
| ●地域  | 大阪府           |

具体的な実施内容（採択からこれまでの取組内容と、それについての課題や成果等が明確となるよう簡潔に記載すること）

### ●これまでの取組概要

#### 持続可能性

#### 構築された体制の確認、事業を通じて得られた知見の活用方法

持続可能性はあります。初年度で体制を構築するのに苦労しましたが、一旦スタートできたことで実績もできたため、今後生徒を集めやすくなったようにおもいます。当初の予定より予算が減ったことはスタートして難しく感じております。今回は初年度ということで講師の方々にもご協力いただき、謝礼金額も少ない中指導に参加していただいておりますが、今後は今よりも生徒の人数を増やし、高学年と低学年の二部体制にして講師の方に1日での指導時間を長くっていただきたいと思いますと考えております。参加者の保護者からは、毎回参加しないといけなようなスケジュールではなく、毎回違った講師による指導なので、休むこともできるのでとても好評です。

#### 事業計画書との差異

新型コロナの影響で、スケジュールが大幅に遅れました。（当初予定 6月→ 実際 9月）大阪府ということもあり、緊急事態宣言や蔓延防止措置の影響でスケジュールが組めなく苦労しました。  
対象者も、当初予定の堺市内の中学生から、大阪府内の小学生・中学生・高校生にまで広げました。  
講師のスケジュールも抑えることが難しく色々な先生方に頼んでいる状況です。  
募集方法に関しても、チラシやウェブサイトによる募集はできているが、コロナの影響もあり学校でチラシの配布を協力依頼はほとんど出来ていません。

#### その他報告事項

講師の方々も来年も継続できるのであれば参加したいとおっしゃってくださっているの、来年も継続できるようにお願い致します。できれば、もう少し早い段階で結果が出れば講師や生徒集めのスケジュール調整もしやすいとおもいます。

### ●進捗に関わる課題と思われること、懸念事項

途中で色々ご担当の方にご相談に乗っていただき、今のところは順調に進んでいっております。  
写真や動画等での記録もとっておりますので、必要であれば提出致します。

※必要な場合は、記入欄を適宜調整すること。

※取り組み概要について、写真等を入れても構わない。

# 「地域文化倶楽部(仮称)創設支援事業」 活動状況報告書

## 7月報告版

|      |              |
|------|--------------|
| ●団体名 | Marimelo株式会社 |
| ●地域  | 東京都          |

具体的な実施内容（採択からこれまでの取組内容と、それについての課題や成果等が明確となるよう簡潔に記載すること）

### ●これまでの取組概要

#### 持続可能性

構築された体制の確認、事業を通じて得られた知見の活用方法

元々初夏に開始の予定でしたが、夏までのコロナの感染状況を鑑み、秋からの開催にシフトしました。しかしその後横の繋がりがりから、9月の時点で他の子供ミュージカルの現場で陽性者が複数発生しているとの情報が入りました。我々チームの先生方は大学でミュージカルを教えている先生方ですが、先生方がこの1年半のコロナ禍で教えてこられた経験上、この状況であれば生徒の安全を考え少し待った方がいいとのことで、22年明けからの開催にシフトしました。また、オンラインの活用に関しても先生方の経験を活かし、今回は全体のクラスでオンラインの活用を活用するのではなく、個別のレッスンや相談などのみに活用することになりました

#### 事業計画書との差異

期間が一番大きな差異です。2022年1月～3月に凝縮して教室を開催することになりました。元々は、期間の最後に短い作品を上演予定でしたが、先が見えない状況の中で先生方と検討し、色々な緊急事態に柔軟に対応できるように、物語性のある一つの大きな物語を全員で練習するより、参加者を曲ごとに分けて、歌とダンスを曲単位で練習することになりました。期間が短くなったのはマイナス点ですが、その代わりに予算組みが楽になったことは事実です。応募時の予算より半分になってしまった予算規模に合わせるべく、先生の数も減らし、生演奏ではなく録音したテープでの練習に切り替え予定でしたが、それも元に戻すことができます。また、拠点の渋谷区の稽古場の他に、無料で使える江東区の場所まで通わなければならない予定でしたが、渋谷だけで完結できるようになり、一つの地域の拠点で活動できることになりましたし、何より実際に通ってくる生徒たちにとっては非常にありがたい変更でした。また、短期になったために、錚々たるキャリアを持つ先生方にご参加いただくことができるようになりました。

#### その他報告事項

### ●進捗に関わる課題と思われること、懸念事項

やっと感染者数が減り安心して開催できる予定ですが、正直なところ、急に第6波がやってきた場合は開催するべきか否か、という問題は残っています。

※必要な場合は、記入欄を適宜調整すること。

※取り組み概要について、写真等を入れても構わない。